特 252
823

講座・第一部 理論篇・

國民教科としての歴史教育

齋藤斐章

始

特252
823

歴史教育講座
・理論篇・
11

國民教科としての歴史教育

齋藤斐章

目次

一　國民教科としての使命……一
二　國史科の本質……八
三　國史教授の價値……一四
四　日本精神の正體……三
五　教材觀……三六
六　教授の法式……五九

歴史教育講座の發刊に際し、私に「國民教科としての歴史教育」といふ問題を課せられたが、本講座の計劃を見ると、第一部理論篇、第二部實料篇、第三部方法篇に分れ、しかも私に依囑せられたのは理論篇に屬してゐる。而して理論篇はもはや大部分が既に公刊せられ、歴史教育原論、現代歴史學思潮、最近歴史教育思潮を始とし、或は哲學的見地より、或は心理學的見地より其れ〴〵檢討せられ、外國史教育論もあれば、女子教育論もあつて殘されてゐる問題は殆どないといつてもよい。さりとて同じやうなことをくり返すのでは、唯讀者を煩はすのみとなるから、私は落穗集といつたやうなの意味で、既刊の論文に取り殘された部分を書き集めて依囑の責を塞がうと思ふ。隨つて一向系統立たないことになるかも知れぬから、この意あらかじめ諒察を願つておく。

さて「國民教科としての歴史教育」といふ課題其の者は、理論としては前の諸篇に言ひ悉くされて居り、教授法については方法篇によつて詳知し得るのであるから、自分は理論篇と方法篇との間を縫うて言ひ殘されてゐる部分を思ひ浮べるまゝに書きつゞることにする。

一　國民教科としての使命

歴史的自己　歴史教育が國民教科として最も重要な地位を占めてゐるのは、歴史は人間の心内に存する先天的な歴史性に基づいてゐるからである。幼兒が搖籃を離れて間もなく、猿蟹合戰や、花咲爺などの御伽噺を聞くことを喜ぶのはこの歴史性に基づくものである。然らばこの歴史性はどうして起るか、今、まづ生理的、心理的發達の上から考へて見よう。

試に自己の生存は何時から始まつたかと問はゞ、何人も言下に誕生の曖間に始まつたと答へるであらうが、胸に手をあてゝ、少し考へると、誕生の當時既に體重七、八百匁であつたとすれば、零から七、八百匁の身體は突然出現するものでないことは物質不滅などいふ六づかしい法則を持ち出すまでもなく、誕生以前に自己の生存が始まつてゐた

ことが何人にも首肯かれるのである。但、誕生以前は母の胎内に母の身體の一部分として生存し、母體營養機關、排泄機關に依存して發育生長したので、誕生と同時に獨立の生活を營み、獨自の營養作用、呼吸作用、排泄作用、運動作用さては感覺・知覺・知的、情的、意的心理作用をなすに至つたのである。其れ故、誕生は自己の生存の始と云ふのではなくて單に獨立生活を營むの始と云ふ意味に過ぎない。更に誕生一年前に溯る時は、自己の一半は父の身體の一部分、他の一半は母の身體の一部分として生存してゐたから、社會的には父の名と母の名とを以て呼ばれてゐたのである。これと同じ道理で、父母の誕生以前は父の父母、母の父母の名を以て呼ばれてゐたけれどもたしかに自己が生存してゐたのである。かくして自己生存の始を尋ぬる時は、祖父母より曾祖父母、高曾父母とだん〳〵に溯り、五世、十世、百世に至つても果てしがなく、つひに建國の始に溯るであらう。かく考へる時は、父母、祖父母、曾父母、高曾祖父母及び其れ以前の凡ての祖先は、自己の一部分であつて決して他人ではない。更に自己は現在のみに生存するのではなくてずつと大昔しの祖先より生存してゐたのである。されば、通例祖國史といふは自己の過去を回顧するといふ意味になる。祖國史卽ち過去に於ける國民生活の歴史は、取りも直さず自己其れ自身を回顧することである。

こゝに云ふ自己は非常に擴大された自己であつて、誕生の時に始まつた普通に自己と呼んでゐるものと區別して、歴史的存在の自己といふ。誕生に始まる自己を小我といはゞ歴史的存在の自己は大我といふべきである。歴史的存在の自己は略して歴史的自己といつてもよい。

自覺は肉體的には搖籃時代から始まるけれども、其の始め、自己と他との區別をさへ知らない。卽ちはじめ自分の手足と外物との區別もないから、外物でも自身の手足でも一樣になぶつたり、つねつたりする。百千回と回數を重ねるに及んで、始めて自分自身と外物との區別を知るやうになるが、大我卽ち歴史的存在の自己に至つては容易に覺醒することが出來ない。教育の力によつてはじめて覺醒させることが出來るのである。嘗て私の青年時代に先輩から次のような話を聞いたことがある。明治十年西南戰役の際、遲卒として鹿兒島縣下大島に駐在してゐたことがあるが、部内を巡回して疲勞したので、とある民家に立ち寄り、緣側をかりて休憩した。其の時、老婆が濃茶を出して接待しながら世間話をはじめ、今、日本國と西鄕さんとが戰爭をしてゐるそうだが、何とかして西鄕さんを勝たせて日本國を負かしたいものであるといつたといふ。その老婆は日本國民であることを知りながら、日本國民を呪ふといふやうな恐ろしい心を持つてゐたのではない。所謂賣國奴といふやうなものではない。つまり自分が日本國人であるといふことを知らなかつた爲であつた。

この逸話には歴史教育家に對する色々の教訓が含まれてゐると思ふ。一つは國民教科として國史を教ふることの如何に緊要であるかといふことである。動物としての、唯の人間としての誕生は生理的の自然の過程であつて、自然の必然的法則に從つて現出するものであるから、自然に放任しておいてもよいのであるが、かくては精神的、國民的誕生は決して起らないのである。嬰兒が自分の手足と外物との區別を知らないのと同樣に「歴史的存在の自己」を知らない時は、自己たる自國をつねつたり、叩いたりするのである。國史教育の必要が高調せられるのは之が爲である。殊に歴史的存在の自己を回顧せしめるといふ立場で國史を教ふることの必要なことが首肯かれるのではないか。二つには西南戰爭といふ史的現象を目擊しても其の現象の奥に潜んでゐる精神、思想に觸れずに、單に外形的史的現象を批判すると、飛んだ見當ちがひの史斷を下すことになるといふことである。

生死といふことの意義　生物學者の云ふ所によれば、吾々の肉體は呼吸作用、消化作用、血液循環作用等によつて時々刻々に新陳代謝が行はれて、肉體には絶えざる變化が行はれつゝあり、七ヶ年の後には、全身體を組織する物質は全部一變するといふ。卽ち吾々は七ヶ年毎に生れ變るのである。其れ故、一細胞、一物質から見れば、時々刻々死亡し誕生して已まないのである。嚴密に云ふならば、今日生存してゐる物質細胞と昨日生存せし物質細胞とは全然同

一ではないのである。身體の組織中に新陳代謝が行はれるといふことはつまり誕生死滅が時々刻々には行れるといふ意味である。通例、死といふのは一物質一細胞についていふのではなく、身體を組織する物質細胞全部が同時に死滅して有機作用が停止したことを云ふのである。

然るに、自己を推し廣めて大我卽ち「歴史的存在の自己」といふ立場から之を見つめる時には、父祖より五世、十世、百世と溯つて果てしがなく、遂に建國の始に溯ると同じやうに、現在の自己の生存も一代、二代で終るものではない。現在自身の生活細胞には絶えず分裂作用が行はれて次第に增殖發達し、子を產み、曾孫を生み、五世、十世、百世と、連綿として絶ゆることが無い。世俗では、子孫が絶ゆると云ふことを云ふけれども、これは現在の小我といふ狹い見方から云ふのであつて、大我卽ち「歴史的存在の自己」の亡ぶるといふことは何千萬の日本國民全部が死滅するといふ場合に限られるので、全然有り得べからざることである。日本帝國のあらん限り生存するのである。かく考へると、歴史的存在の自己には始もなく終りもなく、生もなく死もない。無始無終、不生不滅の生命を有することになる。宗教は靈魂不滅といふことを前提としゐるが、日本魂、日本精神も亦同樣に不生不滅であつて、この不生不滅の日本魂、日本精神を植ゑつけるのが、國史教育の任務である。國史卽ち日本國民史は實に日本教の經典であり、バイブルであるべきである。

精神生活の無涯無限　以上は肉體的生活から推し進めて序述したのであるが、精神生活に至つては、一層意義深く、涯りなき外延と、限りなき生命とを有するといふことの暗示を得るのである。肉體生活には動もすれば自他利害相反することがあるが、精神生活にはさういふことは無い。兩々相對して常に利害相一致して共存共榮をなすことが出來る。今一例を擧げて見よう。玆に母子の二人があるとする。子供は母の飢を救はんが爲に些の食事を採らずして母のみに全部を捧げたとすれば、母は之が爲に生命を繼ぎ得るとしても、子は餓死する外は無い。又いくら慈愛深き母であつても、食物の凡てを子に與へて自ら之を攝ることをしなかつたら、母は餓死するであらう。雲井龍雄の詩に斯兒不レ捨斯身飢、斯身飢レバ斯兒不レ育とあるは、たしかに肉體生活に於て、自他利害相反することを證してゐる。之に反して精神生活は利害相一致して共に生き共に榮ゆることが出來る。母に心配事あれば子も亦母と同じ樣に憂へ、子に喜びあれば母も子と同樣に喜びを味ふことが出來る。卽ち母子共に同じ深さの悲しみに沈み、同じ高さの喜びを樂しむことが出來るのである。これはたゞ母子の間のみならず、一家族、一鄕村擧つて同じ喜びを分ち同じ憂に沈むことが出來るのである。更におし進んで全國民擧げて同じ程度に喜び憂ふることが出來るのである。卽ち精神生活は肉體的自他の境域を撤して、涯りなく空間的に擴大し得るからである。かく空間的に自他の境域を撤すれば玆に所謂小我を捨てゝ大我に合體することが出來るのである。更にこれを時間的に擴大し自他の境涯を撤し去らば？今人も、古人も、未來人も一樣に同じ程度の喜と憂とを分つことが出來るのである。卽ち過去、現在、未來を通じて無限の生命を見出し、無始無終の境涯に入ることが出來るのである。かくて吾々國民は「歴史的存在の自己」を意識することによつて無限の生命を見出し、日本魂、日本精神は宗教的となり、安心立命の契機となり得るのである。

かく精神生活は自他の境域を撤去して空間的にも時間的にも無限に擴大し得るから、其の人の力量、才能如何によつて强弱大小の差こそあれ、必ずや社會に幾何かの影響を與へる。或は一町村、一府縣を動かす人もあれば、全國を動かす人もあり、一時代を動かす人もあれば、百千年代を動かす人もあるのである。例へば湖水に石を投ずる如く、大なれ小なれ、必ずいくらかの波紋を起さないことは無い。少し横道に入るが、吾々教育家は四六時中、教化指導の任を負ひ、幾十百人の少青年に接することを思ふ時、我が皇國皇道の振興に貢献することの如何に有意義の生活をなしつゝあるかに滿悅を禁じ得ないのである。

精神生活の危險性　かく精神生活が無涯無限に擴まるものであるから、恐るべき害毒を社會、國家に及ぼすことも

ある。玆に一人の不良少年があり、十人の仲間を集めて萬引團を作つて店頭の賣品を窃取して飲食娯樂に耽つたと假定する。はじめ十人が自分の不良行爲に共鳴して自分と同等以上の不良少年となつたが、其の十人の各々が更に他の十少年を誘致して同樣不良行爲をなしたとすれば、百人の不良少年を出すことゝなる。然るに、最初の一人の不良少年が何等かの動機によつて改心し、學問を勵み、世業を營み遂に立派な人間になつた時、さて以前の不良仲間をも己れと同樣に改悛せしめようとしても非常に難事である。最近、新聞紙上に續出する危險思想も甲から乙、乙から丙、丙から丁へと燎原の火の如き勢でもつて青年の間に廣まつた。其の巨魁と目されてゐるものゝ中には、衷心から後悔して善良に立ちかへり學業にいそしみ藝術を修めて、今は國家事業にたづさはり公益を計るやうになつたものがある。この青年が最初に自分が誘惑したものを諭して己と同樣に元の善心に立ち歸らせようと努力しても、彼等は之に順はぬのみか、反つて變心者、裏切者として排斥されるといふ有樣であつた。この場合、精神生活が空間的に涯りなく擴まるといふことの爲に、恐るべき害毒を國家社會に殘すことになつたのである。玆に譬喩を以て危險思想の國家社會に害毒を流すことの恐ろしいことを述べて見よう。生物學者の說によると、人體の容積は六萬立方センチメートルあるといふ。今細胞を平均〇、〇〇〇〇〇〇八立方センチメートルと假定すれば、人體の細胞の數は血球を除いて七百五十億に上るといふ。かゝる微細なる細胞の一つが傳染病に感染してさへも、忽ち全體に瀰蔓して死亡を招くことになるのである。七百五十億分の一に過ぎない細胞が病源を起してさへやがて死亡を招くといふ恐るべき結果を來たすのである。況して七千萬人の我が國民の中、二三の者が危險思想を抱いたとすれば、自他の境域なき國民の精神生活のこととて、忽ち全國民に瀰蔓して遂に國家社會に大禍を招くに至るであらうことは容易く推論せられるのである。

嘗て筆者は一中學校の生徒に向つて學校の名譽の爲に喫煙することを止めよと注意した時に、生徒は六百人中唯一人喫煙したとて、どれほどの害毒もあるまいと辯解したのであつた。よつて、筆者は其の考の誤れるを諭し、一人の過ちの爲に全校生徒六百人の不名譽を招いたではないか、今後は己自身は六百分の一に過ぎないと考へずに、六百人の全責任を持つといふやうに考へねばならぬ所以を說いて其の生徒を改悛させたことがある。兎角、世間には、此の樣な誤つた考をもつものがある。己自身は日本帝國といふ一大有機體を組織する一成分であることを知りながら、己れ一人は七千萬分の一に過ぎないからとて、自ら其の身を卑しくするものがあるが、それは大きな誤りであることは前に述べた不良少年の例のに見ても、一細胞が傳染病に犯された爲に致命的となつた例に見ても明かである。我が國民全部がめい〳〵に自分は七千萬人の全責任を擔つてゐると考へて危險思想の保菌者たらざる樣心掛けてこそ我が帝國は磐石の如く堅固なものとなるであらう。

思想上の抗體を作れ　醫師は「病に犯されて後、治療を加へ藥餌に親しむことは消極的であつて、しかも、病膏肓に入つては遂に病源を根絶することは出來ないで、遂に一命を落すことにもなる。最も安全なる治療法は積極的に健全なる身體をつくり、たとひ傳染病菌に觸れても能く之に抵抗し、病菌を驅逐して健康を保持するだけの體質となつて居らねばならぬ。これを抗體といふ。抗體を作ることが保健法の第一である」といふ。精神生活も之と同じことが云へる。過去の歴史に於て展開せられた最高偉大なる國民精神、國民魂が吾々の心内に生ける姿にて再現する時、この最高偉大なる國民精神、國民魂の刺戟によつて吾人の心内に潜んでゐる精神力を見出し、吾が思想、行動を律する所の眞の國民精神、國民魂が覺醒される。言ひ換へれば「歴史的存在の自己」に目ざめて眞の國民的自覺を喚起し、眞の國民史眼を以て眞實の世界を達觀するによつて始めて堅實なる國民思想が確立せられるのである。これを思想上の抗體といふ。この思想上の抗體を作つてこそ能く外來思想、外來文化を統制して世界の上に特立する日本國民精神、日本文化を樹立し得るのである。それには史實卽ち國民活動の動機たる思想、感情（卽ち國民信念）を躍動せしめ、史實又は史上の偉人を自己といふ主觀の中に移し入れ、自己ならざる客觀の中に自己を求めて自己を創造し國民精神、

國民信念を體得せしめるにある。

二　國史科の本質

歴史とは何ぞやといふことについては、歴史教育講座の理論篇中の諸篇に於て論述せられてゐるから、私は之には觸れまい。たゞ序述の順序として歴史教科書に盛られてある史實と教科書との關係を一言しておかねばならぬ。さて史學の定義については學者によつていろ〳〵あるが、最も普通に行はれてゐるのは、

社會的存在として活動する人間の發展の諸事實を價値に關係さした因果關係に於て解明し、かつ表現する所の學問

である。

といふのである。まづこれを解說して然る後國民教科としての歴史教育に說き及ぼさう。

抑〻歴史の發達の跡を尋ぬるに、最初に起つたのは物語的歴史であつて、次に教訓的歴史が起つて過去の史實をかがみとして將來の教訓となさうとした。前車の覆へるを見て後車の戒とするといふ意味である。支那では歴史を政治家の必讀すべきものとし、司馬溫公の著はした資治通鑑の名は治道に資する爲の鑑即ち政治家教科書といふ意味である。我が平安時代以後には、歴史をかゞみと考へ、大鏡、增鏡、水鏡などの歴史書が現はれた。小學校の兒童には物語的歴史と教訓的歴史とを併せ用ふべきである。最後に十八世紀ごろから發展的歴史及發生的歴史が勃興して現代の史風を見るに至つた。これは過去の史實を發展といふ中心概念に聯絡せしめようとするのであつて、古代より現代まで次第々々に發展し來り、更に將來に於ける理想、目的に到達せんことを豫想してゐるのである。玆に云ふ人間の發展の諸事實といふのは、發展的歴史から見て人類發展といふ全體系に結びつけることをさすのである。

「社會的存在としての人間」といふ詞は國民の二字におきかへることが出來る。何故なれば社會的存在としては國家生活を以て人類の大理想とし理性の完全なる統一體は國家であるからである。殊に我が國史を通觀する時は、建國の始より現在に至るまで、絶えず建國の理想を實現せんことに努力し、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代を經て、德川時代、明治時代に至るまで次ぎ〳〵と文化を創造して現代に至つたのである。

「價値關係」は其の奥に目的即ち理想の觀念が存在すること恰も因果關係の背後に發展の觀念が存する如くである。即ち人類は或る目的を以て生活を完成せんとするものと豫定し、其の目的によつて或る歴史現象を秤量して價値が高いか低いかを決定するのである。例へば我が日本帝國には建國以來の大理想があるから、この理想目的から秤量して建武中興の諸忠臣、明治維新の功臣を以て價値高きものとなし、永久の變又は戰國時代を以て價値低きものとなすが如きものである。かくして一の史的現象とは目的理想を中心とする價値體系の結合體に組み入れるのである。反言すれば自己の目的又は人類としての理想が根本標準となり、自己完成の爲に社會形成、國家形成の理想を立て、社會規定、國家規定を作り、社會國家を通じて自己を形成するのである。要するに價値の觀念は因果關係と同じく實在の世界でなくして考へられる世界である。されども價値關係的聯絡は因果關係的聯絡と共に史的現象には必然的に本質的に內在してゐるものである。

「因果關係」は歴史上最も根本的な最も本質的のものであるが、史實と史實との間に因果關係ありと認めて史家が類推するのであるから、動もすれば皮相に陷ることがある。されども最も正確にして最も妥當なる因果關係は一つ丈しか無いといつてもよい。たとひ原因と見られる多くの事情が錯綜複雜してゐるにせよ、これらの內的關係を十分に正確に研究するならば、その間に於ける因果關係は一に歸するといはねばならぬ。其れ故、單に外面的史實即ち人間の活動のみを見るに止まらず、人間活動の動機即ち思想感情に立ち入つて考察しなければならぬ。又人間の活動には特

異的、單一的、一回的の方面のみでなく、各人が同樣にくりかへす部分もある。之を類型的といふ。且又歴史現象については、具體と見ずして抽象と見、量的部分を除き去つて質的方面に傾注せらるゝによつて、歸納的史學理論を可能ならしむるものであるから、他面には一般的法則、一般的因果律によつて說明することも出來る。そこで心理的因果關係と物理的因果關係との兩方面より見なければならぬことになる。

以上は一般的に歴史の定義について言つたのであるが、今はすつと局限して國史の任務について述べよう。

國史とは吾々國民が過去現在に於て如何に進化發展せしかと云ふ過程を、價値に關係さした因果關係に於て解明しかつ表現するものである。

といひ得るであらう。國史の對象となるものは國民生活であつて、國史卽ち國民史は國民生活における生々流轉の潮流を發展の姿其のまゝを把握しようとするのであるから、發展といふことが根本的指導觀念となるのである。この發展といふ指導觀念に導かれて因果關係を把握するに方つては、常に國民が如何に其の生命と生活とを伸展して行つたか、如何に創造し建設して來たかを明かにせねばならぬ。こゝに價値的見地に立つて考察することの極めて重要なる所以を發見するのである。

歴史と自己を求むる心　歴史は過去に起つた歴史現象を過去の姿其のまゝに描寫せんとするもので、時間的な繼起關係に結びつけ、因果性に基づけて其の變轉推移を序述するのである。しかし其れには根本的な要素がある。其れは吾々の心內に潜んでゐる生命である。自己の內的生命がよりよく生きんとする强き要求から起るものである。歴史の最も幼稚な時代にあらはれる物語的歴史に於て國民的英雄の功業を言ひつぎ語りつぐところの動機は、吾々が生きんとすることに重大な關係をもつか又は生きんとする爲の理想に最もよく適合するからである。次に起つた敎訓的歴史は自己の生きんとする內的要求卽ち自己の生活又は生活の展開に何等かの貢獻をなさうとする動機によつて起つたものであり、最高の發展的歴史も自己は如何にして生活を發展せしむべきか、また如何なる發展の徑路を辿つて來たかを歴史の中に求めんとするのである。要するに吾々は生きんが爲の必要から過去の人類の生活に大きな關心を持ち、この歴史を求むる心卽ち歴史的關心は吾々に歴史の中から自己を求めんとするのである。過去の歴史現象の中から自己の生活現象を見出した時に、吾々は歴史の中に自己を發見したといひ得るのである。されば歴史を求むる心は勿論人類の本質を求むる心ではあるが、實は自己が生きんとする內的要求から起つたものである。例へば北條時宗についてまづ何時何處で如何なることをしたかといふ史實を知りたいといふことは、自己の內的要求から起るところの歴史を求むる心である。鎌倉時代の中頃、アジヤ大陸に忽必烈といふ英主が起つて蒙古滿洲から支那朝鮮までを服屬せしめ、更に我が國をも併呑しようとして降服をすゝめた時、我が執權時宗はたび〳〵彼の使者を斬つて斷乎たる決心を示した。文永・弘安の二役に我が將士は死を決して外敵に當り、神明の加護により暴風さへ起つて敵艦多く沈沒し、殘兵は我が軍の攻擊に逢つて戰死し、本國に逃げ歸つたものは少數に過ぎなかつた。これらの歴史現象は客觀的史實に過ぎないけれども、更に時宗以下の鎌倉武士は當時如何なる心理によつて行動したかといふことを探求する時には、史實の中に含まるゝ動機、卽ち思想感情にまで進んで行く。客觀的から主觀的に、事實の世界から精神の世界にまで進んで行くのである。卽ち蒙古襲來の事實より更に深く突き進んで日本國民の本質卽ち思想感情に及び、日本國民たる自己の本質をも明かにしようとするのである。吾々が歴史に於て求んとするところは史實の奥に潜んでゐる精神卽ち思想感情（信念）を體得して自己の精神はこゝに融け込むのである。こゝには物語的歴史も敎訓的歴史も織り込まれ、皇國の發展の徑路を知るといふ點に於て發展的歴史ともなるのである。かくして歴史的關心は吾々に歴史の中から自己を求めようとする心にまで深化されて行くのである。歴史を求むる心は國家の本質を明かにし同時に自己の本質を明かにすることになるのである。其の自己の本質を明かにすることが歴史を求むる根本的動機であるとい

ふことが出來る。自己がよりよく生きんとする強き要求は吾々の心内に潜める生命の中心より來る根柢深き要求より起るものである。自己がよりよく生きんとする理想的表現として自己の何たるかを求め、また自己の屬する國家の如何なるものなるかを求めんとする心から起るのである。

要するに、國史を求むる心は卽ち史實を通じて國家の本質を求むる心であり、國民としての自己を求むる心である。他の詞を以ていへば、歴史現象の中に潜める精神と國家の本質と自己の生きんとする生命とが完全に一致するによつて日本精神が見出されるのである。

以上は一例を擧げたに過ぎないが、すべての國史教材は其の終局に於ては日本精神に關係しないものが無い。例へば日本文化は國民が國家の中に於て生きんが爲に展開せらるべきすべての生活型で、日本精神の外部に向つて表現せられたもの卽ち具體化、客觀化されたものである。文化現象は頗る廣汎にわたり、かつきはめて變化に富んだものであるけれども、これを幾つかの類型に分つて見ることが出來る。

第一、經濟文化は身體の營養發達に必要な營養的生活現象で、第二、政治文化は政治、法律、戰爭、平和等國家が十全の發達を遂げんとする權力的生活現象で、第三、宗教文化は絶對の神を信仰する宗教的生活現象で、第四、藝術文化は審美的なる要求を滿足せしむる藝術的生活現象で、第五、知識文化はあらゆる學問を含むのである。この外、家族、氏族等に關する血族文化をあげることも出來るが、これは血統を重んずる我が國に於て最も重要な役割を演ずる。これらはすべて人類が生きんとして創造する生活諸現象であつて、これら身體的現象を一貫する所の根本的生命がある。その根本的生命が人間を動かし國家國民を動かすのであるから、これら具體的現象によつて其の奥に潜んでゐる國民の本質を認識し得るのである。この國民の本質こそは永久不變のものであり、無限に發展する力であり、國民のすべてが把持するところのものである。日本精神といふはこれである。日本精神がさま〴〵の生活現象となり日本文化となるのである。されば日本精神は日本文化を歴觀することによつて把握せらるべき中心生命である。

こゝに注意すべきことは日本精神は如何にして把握せらるべきかといふことである。史料を澤山に集めよく史實を知り、具體的文化現象を多く見ても、其れは事實の世界たるに止まり精神の世界に入らないことがある。かくては客觀的世界たるに止まつて主觀的世界であり得ないのである。前に擧げた北條時宗の例についても具體的事實の中に含まるゝ時宗以下鎌倉武士の精神を直觀しなければ、日本精神に觸れないことになる。あらゆる歴史現象を媒介として其の奥に潜める潑剌たる日本精神を把握せしめ、生きんとする根本力を育培するのが歴史教育の目的である。

歴史と自然科學　近ごろ西南ドイツ學派の史觀が唱へられてから、歴史を科學として取り扱はうとする人が多いからこれについて極手短かに說明しておかう。西南ドイツ學派といふはヴィンデルバンドを先驅としリッケルト、メーリスによつて大成された。中にもリッケルトは「文化科學及び自然科學」といふ書を著はし、科學は文化科學と自然科學とに分れるべきを主唱し、歴史は卽ち文化科學であるといつてゐる。リッケルトは科學を認識の形式方面からながめて文化科學卽ち歴史を自然科學と對立させ、自然科學は普遍統一性を見んとする見地に立つて認識するもので、經驗的實在から一つの類型（卽ち概念）法則を發見せんとするものであり、文化科學は其れに洩れたる部分卽ち個別的、特殊的なものを價値關係によつて認識せんとするものであるといつてゐる。卽ち自然科學では法則定立が行はれるに反し、文化科學では價値定立が行はれるから、自然科學は普遍的關係をたどる一般化的取扱をなすのであり、文化科學は目的を中心とする價値關係を考へ個別化的取扱ひをするのである。されば種々の現象の間に共通なる點を求めてこれを一つの類概念の下に包括せんとするのは自然科學であつて、普遍的なものを捨てゝ特異性、單一性、一度性のものを價値に關係せしめて一種の概念的のものに加工するものは文化科學である。例へば二十五枚の紙、二十五本の筆、二十五冊の書物と云ふ實在から、枚、本、冊などの特異のものを捨てゝ五、五、二十五と云ふ普遍的な類概

念の下に包括させるものは自然科學の認識法で、鎌倉時代とか源頼朝といへば其れ〴〵の特異性を持ち、二度と起らぬ二人とないといふ單一性、一度性を持つもので、文化科學の認識法である。そうして歴史的認識には三段階がある。第一段階では其の特異性、單一性、一度性を把握し、第二段階では其の個性の持つ價値を決定し、第三段階では切れ〴〵の史實の其れ〴〵が持つ文化價値によつて一つの體系の中に織り込むのである。それであるから歴史と自然科學との間に左の大きな相違がある。

第一、自然科學は、抽象的であるけれども、歴史は、具體的でしかも全體的である。

第二、自然科學は、一般的普遍的であるけれども、歴史は、各個的特種的でしかも集合的である。

第三、自然科學は、各個體から概念を抽象し歸納するけれども、歴史は、具體的事實からなつてゐる。

第四、自然科學では各個は概念の中に含まるゝ所の一例たるに過ぎないけれども、歴史は、各個は全體に對して新しい內容を加へる。

第五、自然科學では、各個は一般概念の反覆に過ぎないけれども、歴史は各個は全體の內容を豐富にするものである。

以上述ぶる所によつて認識論から見た歴史の意義如何といふことが略々理解せられたことゝ思ふ。歴史教材を取り扱ふにあたつては能く〳〵注意して誤解の無いやうにせられたい。

三　國史教授の眞髄

教科書の成立と歴史教授　前に述べた通り、國史教育の目的は日本精神を自覺せしめるにあるのであるが、然らば如何にして日本精神を自覺せしむべきか國史教育の實際を見るに、文部省編纂の尋常小學國史を各兒童に持たせ、この外、兒童は多く參考書のやうなものを持つてゐる。今國定教科書の取り扱方を述ぶるに先だち、教科書の性質について述べよう。

抑々國史は即ち祖國史であつて吾々國民の祖先の精神生活、即ち思想、感情は教科書を媒介として理解させるべきである。

心理學者の說によれば精神生活には知、情、意の三方面があり、之を表示すれば左の如くである。

知　感覺、知覺、記憶、想像、推理、判斷　思想
情　喜怒哀樂、愛惡、嫉妬、同情、情緒、情操　感情　信念
意　欲望、意志、實行　行爲（活動）

知の高尙なる作用は想像力、推理力、判斷力となつてあらはれて思想を構成するのであり、情の高尙なる作用は倫理的道德的情操となつてあらはれる。この思想と情操は融合して玆に信仰、信念が構成せられる。

意は即ち意志で實行力を伴ふのであるからやがて活動、行爲となるのである。小學校令施行規則に國史の目的は國民たる志操を養成するを要旨とすとあるは即ち是である。故に國民の精神生活といへば、國民の思想感情（即ち信念）が動機となつて國民の活動行爲となることを云ふのである。國民の活動行爲は歴史的事實即ち史實となつてあらはれる。されば精神生活の所產は政治、經濟、宗教、美術、工藝、文學其の他一切の遺物遺跡として表現せられる。國民意志の表現は必ずしも政治家軍人の如く動的行爲に限られるものでなく、文學者、藝術家の如く詩文又は美術工藝品等の製作品によつて所謂靜的意志表現をするのもある。前者は多く記錄を原據として說明し得るのであるが、後者は製作物即ち文學、美術、工藝等の遺物、遺跡によつて究明せねばならぬ。其れ故、記錄並びに遺物、遺跡は何れ

も歴史研究の材料として缺くべからざるものである。即ち記錄並びに遺物、遺跡は眞の歴史を透視する所のレンズの如きものである。レンズ其の者は歴史でないけれども、レンズを透視しなければ歴史の實體を凝視することが出來ないのである。恰も細菌研究家にレンズなくして何ら研究の手がかりが無いのと同じである。其れ故、歴史教師はレンズの役目なす記錄を正確に調べ、製作品（遺物）を實驗することを怠つてはならぬ。今國民の精神生活と記錄即ち教科書との關係を圖表にすれば左の如くである。

圖表中、矢の方向は教科書の出來る順序を示したもので、縱線の左に(一)(二)(三)(四)として矢の方向を反對にしてあるのは教科書取扱方の說明に便にしたものである。

歴史教授能率の計量　さて國民の精神生活は知、情、意の三方面にわたるが、國民史の生成はまづ國民思想（知）國民感情（情）が融合して動機となり、つひに意志表現（實踐）となるのである。思想感情のみに終るときは、歴史現象を構成しないから勿論國民史の對象とならない。意志の表現あつてはじめて活動行爲として動的に現はるゝものと製作物として靜的に現はるるものとがある。前者は史實として其の人自身又は第三者によつて記錄せられ、後者は遺物遺跡として後世に傳へられるのである。記錄は政府、舊家の記錄を始とし、傳記、自叙傳、言行錄、日記、年代記其の他一切の文書を含むのであるから、頗る廣汎にわたつてしかも浩瀚のもの多く、專門家以外の人には到底涉獵し盡せないから幾多の根本史料から要領だけを拔萃したものがある。これを編纂物といふ。編纂物には著者自身の史眼によつて適宜取捨選擇されてあり、記述の體裁にも著者獨得の識見によつて編年體、紀傳體、紀事本末體などいろ〳〵ある。大日本史、野史、國史略、日本外史などは何れも編纂物である。これ等編纂物をコンデンスして小學兒童用に供したのが國定教科書である。國定教科書にはところ〴〵に挿繪があり、遺跡を示す地圖がある。挿繪には想像畫もあるが、法隆寺、大佛殿の如き建築物や、佛像彫刻、衣服、調度などの美術工藝の寫眞もある。

以上は教科書の出來あがる迄の順序を述べたのであるが、教師が歴史を教ふるにはよくこの順序を呑み込んで教科書といふ媒介物教材を通して眞の歴史を攫ませなければならない。日本精神を把握させなければならない。多くの歴史教師は教科書を教へさへすれば歴史教授の目的を達したかの如く考へてゐる樣であるが、これは大きな間違ひである。教科書は歴史を教ふる媒介物（教材）には相違ないが、其れ丈では歴史の正體は攫み得ないだから兒童には國民思想も日本精神も作り上げられてゐない。即ち論語讀みの論語しらずとなつてしまふ。だから左翼の人の話を聞けばすぐ其れにかぶれ、右翼の人の說を聞けば、また其れに傾くのである。思想的には浮き草の樣であつて動搖不安此の上もない。何時暗礁にぶつつかるか心もとない極みである。これらは皆歴史教師が惡いからである。數年前に多くの高等學校專門學校の生徒が赤にかぶれて續々牢屋につながれ又は退學處分を受けたことがある。これらの二三の學生と懇談したことがあるが、日本精神とか國民思想とかは微塵も持つてゐない。彼等に向つて國史を小學校中學校で學んだでないかと詰問したところ、小學校ではたゞ忠君愛國をせよとくりかへし〳〵教はつた丈で、「なぜ我が國體が萬國にすぐれてゐるか、なぜ皇室が尊いか」といふことは教はつたことが無かつた。中學校に進んではノートばかり筆記させられて何が何だかわからずに卒業してしまつた。國民思想とか國民信仰とかいふものは日本には無いではありませんか。儒學佛教の傳來は聞いて覺えてゐるが皆外國文化の模倣であつて獨自の日本文化は無いと思つてゐた。今

の時代では、昔のやうに支那印度の文化ばかりでなく其れよりずつと進歩してゐる西洋の文化、殊に其の思想を採らねば世界の進歩に後れると思つてゐたのでした、と云ふやうの述懐を聞いたのであつた。まことに情けなく感じたのであつたが、ふり回つて見ると、これは學生よりも小學校中學校の歴史教師が責任を負はねばならぬのである。これは歴史教授が日本精神に觸れずに死灰の如き記錄のみを暗記させた弊害のあらはれであり、内容を與へずに只忠君愛國の押し賣りをしたのでは理性の發達した青年には納得出來なかつたのである。國體の明徴とか日本精神とか抽象的な呼び聲丈では、到底青少年を滿足させることは出來ないのである。國體の明徴、日本精神の作興は小學校中學校（高等女學校でも）の歴史教師の力によつて始めて効果的となるのである。然るに多くの歴史教師は歴史上に展開せられた日本精神、國民魂を兒童の心内に生ける姿にて再現せしめて兒童の心の底に喰ひ入り、兒童の心内に潜める精神力を呼び醒すことを怠つてゐた。歴史教授に於て歴史上に躍動せる日本精神と教師・兒童の心とが合致して心と心とを觸接せしめることによつて始めて兒童を感化することが出來るのである。そこで歴史教師たるものは如何なる態度で以て歴史教科書を取扱ふべきか、歴史教科書と記錄との關係並びに記錄と國民精神との關係如何を前掲の圖表に基づいて説明しよう。

さて歴史教師は圖表中の(一)を透して(二)(三)を理解せしめ最後に究竟の目的である(四)に到達せねばならぬのであるが、或る教師は(一)丈に終り他の教師は(二)又は(三)に終つて能事終れりとするものがある。誤れるの甚だしきものである。最も劣等の教師には教科書さへ正しく理解し得ず、隨つて誤りなく兒童生徒に傳へ得ないものさへあるが、これは例外として玆には論じない。(一)の教科書を正しく理解しかつ記憶して居るものでも、教科書の原據となるべき他の編纂物並びに根本史料を參考してゐないものである。少くとも文部省編纂の小學國史教師用書ぐらゐは常に座右に備へておかねばならぬ。此の書は根本史料や根據を能く集めてあるから、根本史料や原據になる書物を入手し得ない人には便利な書である。また教科書の中には地圖、寫眞、繪畫が隨所に挿入されてゐるから、説話の間、絶えず兒童に是等直觀材料を利用させねばならぬ。歴史上の人物舞臺を其のまゝ生ける姿にて再現せしめるには直觀材料を成るべく多く提示するがよい。是等直觀材料は其れ〴〵の史實の背景をなすものであり、製作品の繪畫寫眞等は當代の時代思潮、時代精神を會得させるに最も好い資料である。これによつて生き〳〵した時代の姿を眼前に展開させることが出來る。併しこれ丈では兒童がなほ死灰の如き記錄を記憶するにとゞまつて兒童の心内に潜める精神、魂を喚び覺すことが出來ない。

(一)(二)を通して更に(三)の段階に入る教師は史實を死灰の如き記錄とせず、國民の活動として取り扱ふ所に優れた點を見るこれは活動的な兒童にはたしかに適當した取り扱ひ方である。尋常小學國史は大體國民的英雄を題目として記述してあるが、國民的英雄を主題として取り扱ふ時は其處に其れ〴〵の時代を舞臺として英雄が活躍するから兒童は活劇を見るやうの氣持になつて兒童自らが歴史中の人となつて心と心とが接觸して國家と國民的英雄と自己とが合體して玆に國民信念が呼び醒まされて國民精神日本魂が作り上げられるのである。今國定教科書の内容を見ると上卷では第一より第三十一まで殆ど皆國民的英雄を主題としてゐる。たゞ第十四、第十七、第十九、第二十七、第二十八の五課だけがちがつてゐる。しかし其れも第十四は藤原道長とおきかへ、第十七は平清盛、第十九は源頼朝、第二十七は足利義滿、第二十八は足利義政とおきかへて見ることが出來る。この五つだけが人物を主題とすることの出來なかつたのは、下らぬ事情もあつたやうに聞いてゐるが、それにはこゝでは觸れまい。また下卷では第四十七、第四十八、第五十を除いてはすべて國民的英雄を主題としてゐる。これも井伊直弼、德川慶喜におきかへて見ることが出來よう。教師の心がけとしては國民的英雄を主題として教ふるつもりになるがよい。かくするときは、教師自身は勿論のこと、兒童等も國民的英雄の舞臺に活動する姿を思ひ浮べて生き〳〵した生命を感得するであらう。

しかし、もし國民的英雄の活動（行爲）のみを說いて活動の動機たる思想感情に立ち入らなければ兒童の內心に浸透して國民精神、日本魂を覺醒せしめることは出來ないのみならず、教授法の上から云つても非難さるべきものである。何となれば、彼は壇上に立てり、彼は怒れり、彼は泣けりといふ動作（活動）を說明したのみで、何故に壇上に立てるか、怒れるか、泣けるかといふ動機に觸れない時には、兒童に何等の感興も起らず、反對も同情も起らないからである。況してなぜかゝる動作をなしたかといふことさへ不明であるから、唯其の人の動作（活動）を暗記する外はない。卽ち推理的記憶に訴へずに機械的に暗記するに過ぎない。然るに彼は如何なる動機でわさ〳〵壇上に登つたか、何について怒れるか、泣けるかを說明し、彼は不良生徒を懲らしめんが爲に壇上に驅け上つて其の不都合を責めて怒り、校風の衰へたるを歎いて泣いたのであることを聞かば、彼の憂校心のあつきに感ずるであらうし、生徒自身も彼に同情して彼と一體となつて校紀の振肅につとめるに至るであらう。

それと同樣に國民的英雄の活動（行動）を說話するばかりでなく、活動の動機たる思想感情に立ち入つて說明する時は、其の人物の思想、感情は兒童の心內に深く食ひ入つて史上の人物の精神と兒童の精神（魂）とは觸れ合ひ、玆に歷史の心と自己の心とが完全に一致するのである。前に擧げた北條時宗の精神にしても楠木正成、新田義貞の精神にしても兒童の精神に深く食ひ入つて玆に國民的英雄と兒童とが合流するのであるから、國民的英雄の心は兒童の心となるのである。かゝる狀態を自己が歷史の精神の中に沒入して歷史に流るゝ生命と自己の生命とが合一したといつてよい。是に至つて歷史教授究竟の目的は達せられ、過去の史實を知らしむるにあらずして現在の自己現在の國民精神を求め得たのである。一言でいへば歷史によつて現在の自己を求め得たのである。歷史が兒童生活の中に生き、兒童の肉となり血となるものでなかつたならば、歷史教育は國民教科としての能率を發揮し得ないのである。

今の歷史教授を見るに、大凡前の圖表に見る如く四つの階級がある。（一）の段階に屬するものゝ一番多いのはまことに歎かはしいことである。（二）の段階に屬するものにもいろ〳〵の階級がある。一つは教科書を國語讀本の如く取り扱ひこれを讀ませたり、意味を說明したりするのである。この教授法は二つの方面から排除せらるべきである。教書科は兒童に過重な負擔をかけないやうにする爲に分量を少しく、其の結果、史實を省いて抽象的に記載することが多い。云はば肉も血もない骨骼の如きものである。其れ故、兒童には面白味もなく甘味もなく恰も蠟を嚙むやうのものとなる。隨つて國民活動の動機たる國民思想、國民感情を喚び起すことが出來ないから、國民たる志操を養成するといふ教授要旨に副はないことになるのである。次には前に述べたやうに教科書は記錄をコンデンスしたものであるから、歷史を生き〳〵した生命あるものと考へず、死灰の如き記錄を諳記するのが歷史であると誤解するに至る恐れがある。前に述べた通り記錄はレンズの如きものであるから斯う云ふ取扱方では歷史の正體を攫み得ないことになる。

（二）の段階に屬するものは歷史現象を記錄として取り扱ふことは前のと大同小異であるけれども、前の如く教科書を金科玉條としてゐるのではないが、其の代り教科書と離れて史實をこま〳〵と擧げ、板上に項目を摘記して兒童に之を筆記させることが多い。これは兒童に二重の負擔をさせるからいけない。殊に板書を寫し取ることが兒童には相當困難らしい。隨つて兒童のノートには誤字誤寫が非常に多い。故に云ふ「教科書に因はるべからず、教科書と離るべからず」と。但し地圖又は繪畫、寫眞等の直觀材料によつて遺物遺跡を見させることは其の時代、其の人物を髣髴せしむる點に於てすぐれてゐる。

（三）の段階に屬するものは死灰の如き記錄として取り扱はない點に於て前に比して一段すぐれてゐる。

（四）に至つてはじめて歷史教授の究竟の目的を達することが出來る。國民活動の動機たる思想感情を理解せしめる時は偉大なる史的人物の精神が兒童の心內に食ひ入つて心と心とが觸れ合ひ、客觀的の人物・史實を主觀の中に移し入れ主觀客觀の妙合的心境に入り、所謂感激の極致に達して眞の魂を覺醒せしめ、玆に國民的自覺を促がし、兒童の

人格の核心として永久不變の精神的生命を保つことになる。この境地に達したものこそ歴史教授の眞髓を得たものといふべきである。

四　日本精神の正體

國史を貫く日本精神　「歴史的存在の自己」といふものゝ正體が明かにせられた上は、すべての歴史現象は何れも自己の生活作業によつてなされたものであり、其の生活作業は生きんとする生命力の發展のためになされるところのものと見ることが出來る。云ひかへれば、歴史によつて自己の本質が求め得られる。然らば自己の本質は何かと云ふに、それは日本精神である。くはしく云へば、日本人の本質的理念であり、日本人の本心、日本人の魂である。

さて日本精神の根本の基調は何であるかといふに、皇室に對する絶對奉仕の心が國史を一貫する所の魂であり、日本精神の眞髓である。天照大神の御高德を仰ぎ、大神の大御心に合一し、大神の鴻業に立ち歸らんとつとむる心である。大神に對する絶對歸依の心である。大神崇拜こそは三千餘年來の歴史を一貫せるものである。

この天照大神に對する絶對歸依の心が、やがて現人神たる歴代天皇への絶對奉仕の心であつて、これを忠義又は忠誠といふ。この精神こそは、日本精神の眞髓であり、核心であつて西洋にも支那・印度にも見ることの出來ない日本獨自の精神であり、思想である。國史教育を通じてこの精神に目ざめしめるのである。

この皇室に對する絶對奉仕の精神が、我が國統治の主體として歴代天皇を戴くことを此の上なき光榮と感ずることは自然の情である。天照大神が神勅を天孫に賜はり、三種の神器を皇位の御璽と定め給ひてより、皇位は天胤の繼がせ給ふ所として之を千萬世に傳へて君臣の分全く定まり、大義明かとなり、國體の尊嚴は儼乎として犯すべからず

「天祖肇めて皇基を建つ、位は卽ち天位、德は卽ち天德、以て天業を經綸し、細大の事一として天にあらざるはなし。德を玉に比し、明を鏡に比し、威を劍に比し、天の仁を體し、天の明に則り、天の威を奮ひ、以て萬邦を照臨す。」この國體精神は吾等の祖先が之を子孫に傳へて益々皇基を强固にし今日に及んでゐる。吾等は祖先の心を以て心とし、孝敬の心を以て國體を擁護し、各々祖先の遺體を以て祖先の志を繼ぎ、祖先の事を行ひ、千萬世といへども尙一日の如し。父子の親は敦く、君臣の恩義は重し、孝を以て君に事へて忠を致し、忠を盡して孝道を全うす。忠と孝とは一にして二ならず、億兆心を一にして天人合一す。忠孝一本の道德は國民精神の核心であり眞髓である。實に他の國に其の比を見ざる所の日本獨自の精神といふべきである。

純眞の愛は、子を思ふ親心、親を思ふ孝心から始まる。孝心を推しひろめれば一家を思ひ、一鄕を思ひ、一國を思ふに至るのである。國を思ひ、國民を思ふのが愛國の精神である。愛國の精神は勿論他民族にも存するが、日本人の愛國の精神は己れに求むるところなき絶對の愛國心である。この點、他國民の憂國心が究極に於て己れに求むる所あるものとは趣を異にしてゐる。殊に國家を思ひ、國民を思うて意に任せざる場合は愛國の精神となり、やがて殉國の精神にまで進み、己れの身を捨てゝ國難を救ひ、私を殺して仁をなすといふ美德は我が國民獨特の長所である。德川時代の所謂志士と稱せられるものは、何れも愛國の士にあらざるものなしといつてよい。愛國の熱情に燃ゆるものは發して殉國の精神となる、吉野時代に於ける楠木正成等勤王の諸將は一身を捨てゝ何等の感謝も求めず、唯一筋に義の爲に起てるものであり、德川幕末に於ける幾多の志士はこの殉國の精神に感激して奮起したものである。要するに、日本精神は私心を殺して一意、皇室、國家を思ひ、終始君國の爲に一身を捧ぐるのであつて、國家の爲に盡す以外には何物もないのである。

日本精神はもと〳〵日本民族の本來所有するところの固有の精神であるが、それが日本歴史によつてよみがへつた

精神であるから、日本の歴史なく、國民の自覺なくしては、日本精神が發動し得ない。一言以て蔽へば、國史による自覺の産物である。日本精神は實に日本の國民生活の根幹をなす所の精神（魂）であるが、其の日本精神が發現するには、各時代の特色に應じて一樣でないから、各時代の特色の背後に潜んで生々と活動する所のものを洞察しなくてはならぬ。玆にはじめて日本精神の動きに接し得るのである。今おほまかに國史を一貫する所の日本精神が如何に各時代々々の特色に應じて發動するかを簡明直截に例示しよう。

神話に現はれたる國民の理想　神話は之を語りつぎ言ひ傳ふる間につまらない部分は忘れられて國民的英雄の功業談の如き、國民の思想感情に投合し、かつ傳誦に値する部分だけが、後世に傳へられ、次第々々に詩化せられて口調も整ひ快感を伴ふ樣になる。かくて人民次第に發達して文字を使用するやうになると、之を記述して永久に傳へんとするものである。我が國の古事記の如きは是である。神話の成立は此の如きものであるから、勿論、史實としてそのまゝ信ずることは出來ないけれども、言ひ傳へ語り繼ぎながら、之を詩化し理想化する間に、吾等祖先の思想感情を映寫するものである。其れ故、神話は國民性を窺ひ知るべき絶好の資料である。換言すれば、神話は國民思想の反映であるから、祖先の心理は神話によつて領解し得られるのである。

神話は智識の程度が極めて低く、吾々の祖先が何時何處から移住したかを忘れた後に言ひ傳へられて來たのであつて、大八洲國は祖先の知つてゐた地理的知識の全部であつた。これが大八洲生成の神話が出來た所以である。西洋の世界創造說や支那の盤古神話などに較べて大きな相違のある所に、我が國民の特異性がある。諸冊二尊が天皇の御祖先と大八洲國とを産まれたのであるから、大八洲國と天皇とは兄弟の間柄であらせられると云ふ信念の下に、親しみを持ち、國土を離れて天皇なく、天皇を離れて國土は無いのである。卽ちこの國土は永久に皇室に支配せらるべきであると信じて來たのである。されば天照大神が「葦原の瑞穗國は我が子孫の王たるべき地なり」と皇孫に宣はれし神勅は、この理想に一致するもので、天壤無窮の皇運が祝福されてゐる。

また出雲風土記の傳說には「出雲の國狹しとて新羅の岬を毛曾呂々々に國來々々と引き來りしは八穗米（杵柔の枕詞）支豆支（柱）の御崎なり」とある。これによつて吾々祖先が如何に雄大の氣象を抱いてゐたかを知ることが出來るのみならず、當時、新羅卽ち朝鮮半島の知識が一般に及んでゐることを證するものである。

神話によれば、天照大神が皇室の御祖先であらせらるゝと共に、太陽神として崇拜せられ給ふのである。卽ち一面には天皇の御祖先たる人間神として現はれ給ふのである。卽ち一面、天皇の御祖先たる人間神として現はれ給ふのみならず、他面、高天原を支配せられる太陽神であらせられる。自然崇拜の一たる太陽崇拜が我が國家組織や社會組織と結びつけられたところに、我が國民性の特色がある、天皇の神聖なことがあらはれてゐる。また太陽神は光線を公平に放射するものであるが、この太陽を天照大神と結づつけたところの思想は、天皇が國民に對して一視同仁であらせられるといふ事實に卽してゐることを思はしめる。これ天皇が國民を平等に愛し給ふこと太陽の光線を公平に放射する如くであるといふ信念から生じた神話である。

三種の神器の一たる八咫鏡は天照大神の大精神がこの鏡の如く遍く照らして隱す所なく、すべての國民の前に公平に臨み給ふことを意味するのである。天皇の絶對は平等なる國民の反映であつて、國民の平等は天皇の絶對の反映である。天叢雲劔は素戔嗚尊が出雲から獻上されたものであるが、吾々祖先はまづ平和的社會として現はれ、其れが永くつゞいて行く間に、强い異民族に接するに至り、玆に劔の必要が起つてくる。卽ち異民族の同化が武力解決による外はない場合にのみ劔を用ふるといふ思想が玆に現はれてゐる。我が國の神話ほど武力爭鬪の神に乏しいものは世界に類がない。たゞ建御名方神が武甕槌命と戰つたぐらゐのものである。要するに神鏡は正直の表徵であり、神璽は仁義の表徵であり、神劔は武勇の表徵であるから、天皇は仁義と正直と武勇との權化であらせられ、決して支那の傳國

の璽やローマのファシスの如き權力のみの表徴ではないのである。因に云ふ、或る學者は三種の神器は知仁勇の三德を示されたものであるといつてゐる。

また吾々の祖先は己れの國を神國といひ、八百萬神は我が國を守ると考へてゐた。神は正直を尚ぶと信じてゐたから、正直純眞といふことが國民信仰の上に現はれ、神は人によりて威を增し人は神に依て德を受くとなし、神と人と相通じ、神を人格化すると同時に、人を神格化するによつて國民思想を形造つてゐる。この原始狀態が後代まで續いて、玆に我が特異なる國體が出來、天皇を現人神と稱し奉ることに天皇に對する國民の絶對的服從を見るのである。

天照大神は御神勅を皇孫に下し給ひて皇孫及び其の御子孫に深厚なる慈愛を垂れ給うたのであるが、皇孫より始めて歴代の天皇は皇祖皇宗を親祭し給ひて孝道を申べ給うた。國民も己等の祖先を祭ると共に、皇室を御宗家と仰ぎ大神をば國民の始祖として尊崇し奉り、歴代天皇の御仁愛に對しては我々の祖先は現つ御神として「大八洲しろしめす天皇」と尊崇し奉るのである。かくて君民同祖、國卽ち家といふ觀念が根本要素となつてゐるから、我が國の忠孝は過去、現在、未來にわたり祖孫を通じて繼續する所の國民道德である。

外來文化と日本精神の發動　國民文化の發展には自國文化と異なれる他國文化との接觸が必要である。異なれる文化を取り入れて自國文化の足らざるを補ひ、或は其の刺戟をうけて國民文化は其の進步發達を遂げるのであつて、保守的、排他的國民には見るべき文化の發展を期待することは出來ないのである。

しかし乍ら、他國文化を受容した文化が、單なる他國文化の模倣に終つたならば、それは進步に非ずして、異國文化の移植といふべきである。眞の國民文化の發展は常に自國の固有文化を保持しつゝ、これに新しき他の文化要素を加ふる事に努力し、自國文化の改善完成につとめることである。卽ち傳統的文化を根柢とし、自國文化の發展に必要なる他國の文化要素を取り入れてその營養となし、自國文化の發達に必要なき要素はこれを除去し、自國文化を阻害する要素は斷じて排斥して採らないのである。

はじめ我が國民の文化的生活は精神物質兩方面とも極めて單純素朴で、我が國民思想の根柢たる崇祖敬神の觀念も支那文化が輸入するに及んで、始めて其の形式も整ひ內容も豐富になつたのである。支那文化の淵源は極めて古く、遠く我が紀元前二千餘年に溯る。夏(四百年)殷(六百年)周(八百餘年)三代を經て制度文物大に備つた。我が國に輸入した徑路は其の初は大抵韓地を經由したが、支那思想の一大特徴と見るべきものは儒敎であつた。儒敎が一般人類に適用せらるべき普遍的思想を含めることは勿論であるが、支那特有の國情や國民性に適合せしめ、かつ孔子、孟子の在りし春秋戰國時代の弊を矯めて天下の秩序を保たんことを努めたから、論語、孟子に說く所はまゝ我が國體や國民性と相容れない所がある。中にも禪讓放伐や易姓革命の如きは其の最も甚だしいものであつたから、斷じてこれを斥けたのである。

漢學傳來後三百年、佛敎傳來してより四十年にして、聖德太子出でゝ攝政の重任に就かれた。當時貴族專權の弊漸く甚だしかつたが、太子は冠位十二階を定めて秩序を正され、儒敎の所謂五常の上に德を加へ、大小の德仁義禮智信とせられたことは儒敎主義を採用せられたことを知るべきである。ついで太子の制定し給へる十七條の憲法は、儒敎主義、佛敎主義を融合して政治道德の標準を示されたものであるが、第三條に承〻詔必謹といひ、第十二條に國寡二君一民無二兩主一率土兆民以〻王爲〻主云々とあるは君臣の大義を明かにせられたもので我が國體の根本義を明示せられたのである。憲法制定後一年を經て、我皇祖天皇等宰〻世也……故群臣爲〻端〻心宜〻拜二神祇一といふ詔勅を下して百官を率ゐて神祇を祭祀せられた。かく太子は我が國體國民性の上に立脚して敬神の美風を尊重しつゝ新なる大陸文化を攝取して國家再建の大目的に邁進されたのである。

太子は直接に支那文化を移入せられんとし、使を隋に遣し給うた。當時隋は南北朝を統一し廣大な領土を有し、東洋第一の强國であつて、國の大小强弱を以てすれば、日本はもとより彼の比ではない。文明の程度を以てすると、彼

は遙に我の上にあつたけれども、聖德太子は飽く迄對等の禮を執つて下らず、日出處天子致書日沒處天子無恙云々との國書を送られ、能く我が國の體面を維持し給うた。これ太子が熾烈な日本精神を把持せられたことを示すものである。

大化改新は政治的、社會的、經濟的の大變革であつて聖德太子の思想に端を發し、支那の儒教に於て理想とする王道政治を實行するにあつたから、支那の政治の模倣に過ぎなかつたのは怪しむに足らない。併し制度の上に我が國獨特の精神を現はして居るものがある。例へば太政官の上に神祇官をおいたのは單なる唐制模倣ではなく、神國としての我が國體に基いたものである。元來大化改新は封建的なる氏族制度に於て豪族が政權を壟斷し國勢の運用に支障を來たした情勢を打破せんが爲に行はれたもので、祖先傳來の特權を否定し、生活の基礎たる土地、人民を官沒せる我が國未曾有の大改革であつた。かく國民に大なる不利と苦痛を齎すべき新制度が容易に認容せられ、中大兄皇子にならつて諸豪族が土地人民を天皇に奉還し、中央集權の確立を見たことなどは國民がよく我が國體の根本義を理解せざればなし得ざる所である。

また我が皇室に於ては儒教の德治主義を採用せられて御歴代の詔勅には常に德を以て民に臨ませらるべきことを強調して居られるゝに拘らず、國民は儒教を採用しながら、その中心要素たる禪讓放伐の思想を斷然排斥したる如きは、國民がよく我が國體を理解し日本精神を把握して居つたからである。

佛教は印度の風土に培はれて、印度人特有の色調を帶び、超國家的世界主義を建て前とし、現世否定、極樂淨土を欣求する事を以て主眼としてゐるから、現世的、享樂主義の我が國民性情に合はず、我が國體に合致せざるは明かである。然るに吾が國民は勿論、一面には死後の冥福を祈るといふことを信ずるに至つたけれども、現世の生活を否定する事は決してしなかつたのである。

また我が藝術の發達は佛教藝術に負ふ所最も多く、むしろ佛教藝術の移入あつてのち、我が國に眞の藝術が生じたといふべきである。かくて、內に强大な同化力を有する我が國民は、外來の文化を攝取して能く大本を失はず、我が國民性に順應せしめて獨自の文化を產みだすことが出來たのである。

佛教は聖德太子の保護によつて次第に國民的信仰となり、奈良時代には國家の保護の下に未曾有の隆盛をいたしたが、これは國家の安寧を謀り國民の福利を齎すことを佛德に歸し、寺院を國家の平安を祈禱する所としたのであつて、佛教は國家擁護の宗教として信じられたのであつた。平安時代のはじめ最澄・空海はそれ〴〵山嶽に寺を建て、その地に鎭座してゐた神々を守護神とし、神明は喜んで佛法を保護するとして我が國固有の信仰との調和を計つたので、延曆寺・東寺の如きは皇城の鎭守、國家護法の道場と化したのである。是より佛教は益々日本的となり、本地垂跡說は巧に佛教と神道とを融和し、これより佛教は全く我が國體に同化せられて終に佛教は國體擁護の方便となつたのである。

かくして各宗とも正月元旦にはまづ最初に御歴代の御冥福並に上御一人の聖壽無量を祈願するを定となし、皇室に對してその尊嚴を認め、佛教に於ける平等主義が是正され、かくて佛教の性質中、我が國民性と合致せざる所は悉く失はれて日本獨特の發達をなし、日本精神がよく發揮せられたのである。

武士道に發揮せられた日本精神　武士道は平安時代の末葉以後、廷臣公卿は漸く墮落して國民道德は全く地に墮ちてしまつた時に當り、地方に潛勢力を養ひつゝあつた武士が擡頭し、漸く社會上の地位を占めて國民道德を振起し、勇武を中心とした國民道德、卽ち所謂武士道が新に起つたのである。

しかし武士道はその由つて來る所は甚だ遠く、開闢以來我が國民の血液中に傳はつてゐる國民道德卽ち日本魂の一種の發現に外ならい。神話に細戈千足國と稱せる如き、神武天皇、日本武尊の御雄圖、神功皇后の新羅征伐の如き皆

日本魂の發現でないものはない。故に武士道の名は鎌倉時代の武士に創まつたのであるが、其の根本精神は神ながらの道に淵源してゐるのである。

武士道が新に齎し來つた新德目は主從の間に結ばれた恩誼の觀念である。恩誼の觀念は相互的觀念であつて、主は從を愛撫するを道とし、從は主に對して忠義を盡し命を捧ぐるを道とした。主も從も己一身の利益を犧牲として他人に貢獻するのである。故に主從の相互的義務こそ武士道の根本である。而して最初は恩賞利祿によつて結ばれた關係も二世、三世と傳はるに及んで次第に特殊の精神的要素が加はり、遂に主人の爲に身を殺すといふ犧牲的精神を生ずるに至る。されば武士道に於ては、この相互的觀念は絶對的權威となつて種々の武士道精神も皆この源泉から流れ出たものである。かくて武士は身命を主人に捧げるを名譽とし、死後の名譽を重んじ恥辱を浮世に遺さざることを期し、武勇を以て生命とし弱きを助けて强きを抑へるを任とした。

武士の特に節儉を重んじたのも畢竟はこの相互的觀念から來たもので、而も武士階級の生活狀態から來た必然の要求に出でたものである。蓋し武士は一定の祿を食み收入に制限があるからして平素は質素儉約を旨として精鋭な武器を備へかつ後顧の憂がない樣にせなければ一旦事あるに臨み敢然として君命に赴くことが出來ないからである。若し平日奢侈贅澤に流れた爲に生活が困難なるに至れば啻に忠勤を抽んずることが出來ないのみならず、遂には賄賂を取り破廉恥を行ひ武士道に缺くる行をなすに至るであらう。故に質素儉約其れ自身に絶對的價値が存するのではないけれども、質素儉約によつて利し得た財力を有することによつて武士道を達成することが出來るのである。

武士道は賴朝に奬勵せられ實現せられ武家政治の下に著しく發達した。鎌倉武士の精神は一面には貞永式目によつて次第に傳承せられ、他面には鎌倉武士が各地に分布せられたことによつて全國に普及されたので、我が國民元氣の旺盛なことは前古無比と稱せらる。また武士道に對して婦道も樹立せられて婦人の貞操に關する觀念が明確にせられ、道德思想が大に進歩し、我が國民道德史上に一時期を劃した。

されどもこの時代に武士道は武士の屬してゐる地方國體と其の直接事へる主に對して發揮され、國家にまで發展し得なかつたのは、當時の社會が封建組織であつて武士がその屬する社會、その事ふる主の上に國家と國家を統治し給ふ天皇あらせられることに思ひ及ばなかつたからである。社會の最大なものが國家であり、主の最高のものが天皇であらせられるとき、國家と天皇に對する武士道精神の發揮は武士道の極致である故に、武士道は忠君愛國の素地をなすものであり、忠君愛國は武士道精神が基礎となつて發展したものである。

吉野時代に於ける日本精神の發揮　吉野時代から室町時代にかけては、國史上大義名分の最も紊れた時代であり、日本精神の最も衰微した時代である。國民が目前の榮達をはかり大義名分を誤れるを慨いて國史の本質を闡明し、皇室の尊嚴なる所以を說いたものは北畠親房の神皇正統記である。神皇正統記は實に我が國體に關する研究の基礎をおいたものである。この時に當り楠木正成・新田義貞・名和長年等は燃ゆるが如き尊皇心を以て戰線に立つて典型的日本精神を發揮し、懷良親王は明に對して毅然として獨立國たる體面と自信とを表示せられた。是等は何れも日本精神の發露であつて眞に暗夜に於ける光明であつた。

近世の國體の研究は水戸光圀の大日本史及び朱子學の大義名分論に刺戟せられ、水戸學に於て大成され、終に輝ける明治維新を招來したのであるが、更にその淵源を尋ぬる時は、實に親房の神皇正統記に端を發してゐる。足利尊氏が壇に幕府を開き、持明院統を擁立して天皇と稱するや、國民は國體の本義を忘れ目前の名利にくらみて其の擲背を誤れるが故に、正統の天子であらせらるゝ吉野朝廷は其の勢日々に蹙まるといふ有樣であつた。親房は一族を擧げて誠忠を盡し後醍醐天皇の勅を奉じて興復の計を立て賊將との苦戰を續けてゐたが、力及ばず、慨然として戰陣の間に筆を執つて神皇正統記を著はした。その說く所は我が國に於ては皇位を嗣ぎ給ふべき御系統は只一筋であつて三種の

神器を奉じてゐられる吉野の天子が正統の天子であらせられるといふ一點に歸する。我が國は神國であり、天祖天照大神の御血筋を受け給ふ所の萬世一系の天皇を戴くといふことは世界に比類の無い尊い國である。國王の系統の屢々變更する天竺の國や、たゞ力あるものが勝手に天下を奪ふ支那などに比較する時は、其の貴賤尊卑は素より同日の論でないといふことを高調し、日本を大日本とよび支那をば夷と稱してこれを卑しめてゐる。要するに親房は國體論より吉野朝廷の正統であらせられることを明かにし、嚮背を誤つてゐる足利方の武士に警告するといふ時代の要求に立脚したので、神皇正統記は我が國體論の金科玉條として後世に發達せる國體論の基礎となつたのである。

武士道の發達史から見れば、吉野時代はたしかに一期を劃したものと云つてよい。鎌倉時代には恩義の觀念が單に主從の關係を結びつけるに過ぎなかつたから、國民は幾多の階級に分れ、天皇から見れば陪臣、陪々臣であつたが、吉野時代になると、天皇と國民とは直接的關係となり、全國民は均しく天皇の臣民であつて全國民は身命を天皇に捧ぐるを光榮とし、義務として强烈なる尊皇心を喚起し、皇室を中心とする愛國心を發動するに至つた。かくて武士的精神の結晶が根强い皇室中心の國民思想となり、正成・義貞・長年等の如きは燃ゆるが如き尊皇心を以て戰線に立つたのである。一大國民詩、一大國民文字とも云ふべき太平記はこれら國民的英雄の事蹟を序述して感傷的情緒を鼓舞したのである。されば吉野時代は其の年數の短かつたに拘らず、國民史上最も重要な位置を占めてゐるのである。德川時代末葉に於ける勤王の志士は是等南朝諸忠臣の遺志を達成せんことを期して遂に明治維新の大業を完成したのである。

吉野時代に於て特筆すべきは懐良親王の對明外交の態度である。はじめ後龜山天皇の御代、明が支那を統一すると、使を遣はして我が國を招致しようとした。後醍醐天皇の第十九の皇子懐良親王は征西將軍とし菊池氏に擁せられ、九州の賊と戰ひ筑紫を鎭撫して居られたが、明王の書辭が不遜なる故を以て之を斥けられた。倭寇に苦しんで居た明は、更に五人の使者を送り、國書を齎らし我が國を威嚇したので、親王は其の無禮を怒り三人を斬り他を追ひ歸した。其の後も明主は使を遣して我が無禮を責め倭寇を禁ずるやうにといつて來たが、親王は敢て明帝を畏れず、日本は獨立國であるから、明の指圖は受けぬとて使者を追ひ返した。懐良親王が狹い八代の地に賊軍と苦鬪をつゞけつゝも、外國に對しては一歩も讓らず、毅然たる態度を示してゐられた如きは磅礴たる日本精神の發露といふべきである。されば明の太祖は祖訓を著はし十五の不征國の中に日本を擧げたといふ。

德川時代に於ける日本精神の發動　戰國時代には中央政府の權力が微弱であつて統一の力がなく、社會組織は殆ど崩壞したが、國民の活動的機運は全國に漲り舊形式は到る處に破壞せられて無政府、無秩序の狀態となつた。この時にあたり、武力に於て、政治的手腕に於て、一頭地を拔き、能く時勢を指導して秩序的、統一的ならしめたものは織田信長、豐臣秀吉、德川家康の三人である。中にも信長、秀吉は統一的新機運の曉鐘であり、家康は二人の後を承けて中央政府を確立し能く三百年間太平の基を開いた。しかし家康は鎌倉時代以來の幕府政治を踏襲したに止まり、王政の古に復るべきことを知らなかつた。

然るに學問興隆し國史・古典の研究起るに及んで、一切の政治が朝廷の手から離れて武家の手に歸したことは、天皇が唯一絶對の主權者であらせらるべき我が國體の本義に背くのだから、これを國體上其の本然の姿に歸らしめねばならぬと叫ぶやうになつた。されば勤王運動の原動力となつたものは實に漢學者、國學者であると云つてよい。

山崎闇齋の「中國論」には、支那人自國を中國と誇稱すれば、邦人も亦中國と稱してよいと云ひ、禪讓放伐の支那には眞の正統が無く萬世一系の我が皇國に於てのみ眞の正統は存するのであると說いた。闇齋は、はじめ朱子學を修め晩年神道學者となり垂加神道の一派を立て、强烈なる日本主義と熱烈なる皇室尊崇主義とを保持した。

崎門三傑の一人である淺見絅齋は日本の國體の價値を認識し日本を尙び皇室を尊敬しなければならぬ所以を强調し

て靖獻遺言を著した。常に云ふやう「我が足關東を踏まず、食を求めて諸侯に仕へず、出處進退一も古賢に恥づる所なし」と。甚く補公を敬慕して其の居室を望楠書院と名づけ座右の太刀には赤心報國の四字を鏤めたといふ。綱齋は闇齋以上の熱烈なる日本主義、皇室尊崇の思想を把持し、靖獻遺言は幕末勤王志士の教科書とも云ふべきであつた。梅田雲濱は望楠書院の出身である。綱齋は朱子學者であるが、その門人には却つて著名の垂加神道家を出し、我が國に於ける勤王運動の魁をなしたと云はれてゐる竹内式部はこの流れを汲んだのである。

元祿の頃、山鹿素行ははじめ朱子學を修めたが、後轉じて古學を唱へたので、朱子學の大宗たる林大學頭の壓迫を受けて赤穗城主淺野家に預けられた。其の頃より再轉して國史の研究にうつり、皇國尊崇思想、國體尊敬論を强調し、萬世一系の皇統が其の基礎となり、國民が他國を羨むの不見識を攻擊して盛に日本精神を唱へた。

德川光圀は諸學者を招いて大日本史を編纂したが、この衝に當つた學者は多く朱子學の大義名分論及び垂加神道の尊皇思想の感化をうけたものであつたから、自ら國體の本義が明かにせられ、後に至つて所謂水戸學の興隆を見たが、水戸學は國史の研究から來た國體觀念と、朱子學から出た大義名分思想とが合致して出來たところの皇室尊崇論である。後年の水戸學の中心人物たる齊昭は十五代將軍慶喜の父であるが、齊昭を扶けた學者に藤田東湖・會澤正志齋がある。吉田松陰を始めとして勤王家の著名な人々は大抵水戸學者と意見を交換するか、又はその教を受けたのである。

儒學の隆盛に對抗して國學の研究も盛になつたが、國學は古典によつて我が古代の歴史・制度・思想を研究するものであるから、武家政治發生以前に於ける皇室中心の國民生活が漸く闡明せられ、萬世一系の皇室を奉戴する我が國體の善美なる所以を高調し、儒學者が支那の文化の發達に眩惑せられてその國體の醜惡なる所以に氣付かずして、これを尙ぶの餘り、祖國を輕んじ蔑視するの愚を痛烈に排擊して日本的なるものに歸れと絶叫した。かくて本居宣長から平田篤胤まで進んで我が國體の本義に基いて天皇御親政を主張すべき考へに迄すゝみ、天保の頃に至れば、幕府の威力益々衰へると同時に、國學者の幕府排斥の思想も尖鋭化し、表面化し、實際化したのである。

尊王思想の發達するにつれて尊王論を說き王政復古の實際運動を試みる者が輩出した。先に竹内式部・山縣大貳等王政復古の說を唱へて幕府に刑せられたが、尊王論の勃興は到底抑ふべくもあらず、幕末に於ける有名、無名の勤王家は、其の數、實に夥しく、各藩から一時に勤王家が現れ多くは勤王のために斃れ、皆甘んじて君國の爲に犧牲となつたのである。攘夷論者は幕府の外交政策を攻擊して幕府を崩壞せんとし、尊王論者は幕府を崩壞するによつて其の目的を達せんとし、遂に尊王論者・攘夷論者相提携して幕府を打破し、遂に明治維新の大業を遂ぐるに至つた。されば文化史的に之を見ると、德川時代は支那文化の出來上つた最後の時代であるから、舊日本の完成と云ふべきであるが、他面、自發的研究を以て國體の本義を明かにし、神武創業を明治維新の理想とするに至つたから、新日本の基礎を築いたものといつてよい。

明治時代に於ける日本精神の顯現　明治維新によつて舊幕府の制度は根柢から破壞されたから、世人はさながら餓えたる者の食を求むる如く、頻に新たなるものを迎へるのであつた。この間隙に乘じて入り來つたものは西洋思想であつて、所謂西洋心醉時代を現出し、日本精神喪失の狀甚だしきものがあつた。まづ英國の功利主義が福澤諭吉によつて唱導せられ、慶應義塾を開いて政治道德から風俗習慣まで專ら西洋の功利主義によつて子弟を敎へた。これより西洋主義崇拜の風潮は漸く普及し、新聞紙の刊行と相俟つて擧世滔々として洋風を欽慕した。また板垣退助等佛國の民權自由說に立脚して民選議院設立の建議をなしたので民權自由の聲は一世を聳動した。

かゝる極端な歐化主義は端なくも國民の間に抵屈してゐた國粹主義を擡頭せしめ、これより兩者の思想的抗爭が行はれた。國粹主義者の論據は日本の國體、國民性の上から立論したもので、西洋の學理に求めたものでない。これ明

かに國民的自覺の域に進んだものといふべきである。明治天皇は我が建國の體制、皇室の尊嚴、國民性の特質を基礎とし、歐米に發達せる代議政體、臣民の權利義務等の法理論を參酌して憲法を欽定せられ、明治二十二年紀元節を卜して發布せられた。實に千歳不磨の法典と云ふべきである。これを世界の歴史に見るに、かゝる政治上の大變革が君臣和樂の間に行はれたことは全く類例なき處で、我が國體、國民性の優越を示すものである。帝國憲法と同時に皇室典範も制定せられ、列聖の遺法はこゝに成文法となり、國家の基礎はいよ〳〵固くなつた。翌二十三年には教育勅語の煥發があつて國民道德の大本を御示しになつたので、これ迄適歸する所に迷へる一般國民は恰も暗夜に燈火を得た如くであつた。明治二十七八年戰役起り、國家存立の一大危機に直面したるを契機として、國民思想史上に一轉期を劃し、國民的意識に明確なる自覺を與へた。即ち國家の死活問題に際會して强烈なる對外的敵愾心が勃然として起り、國家國民の眞意義が玆に覺醒せられ、國内に於ける進歩保守の爭も、個人主義國家主義の爭も自然に消散して日本精神に蘇つて協力一致以て其の國難を突破したのである。戰勝の結果、自尊自負の氣象を生じ、世界に於ける獨立國としての體面を保ち、東洋に於ける一帝國の臣民として國利民福を增進せねばならぬとの自主觀念が異常に促進せられた。今や二十年代までの偏狹なる國粹主義でもなく輕薄なる歐化主義でもなく、國家國民の世界的地位を考慮し、國家の前途について自覺ある國民生活を營むを以て國民の本分とするに至つた。

五　教　材　觀

教材を論ずるには、まづ教材の最も整頓せられた教科書について述べなければならぬが、今は、國定教科書を批判したり、又は教科書編纂に關する理想を論ずる積りはない。唯與へられた教科書は歴史教授上どんな役割を持つてゐるか、又どんなに取り扱ふべきかについて述べよう。

第一　歴史教科書

歴史編纂の方法にはいろ〳〵ある。まづ歴史教材の排列法から云へば上古から中世・現代に至るまで歴史の生起の順序に從つて排列せられるのを順進法といひ、其の反對に現代を出發點として中世より上古へと、逆に排列せられるのを逆進法といふ。前者は普通一般に行はれる記述であるが、後者は千八百三十年頃、獨逸のカツプ及びヤコビによつて唱へられた。我が國では吉田東伍氏の倒叙日本史がある。

また環狀教案とていく度も上古から現代までをくりかへさせるのがある。今の尋常小學用・高等小學用はこれである。分類的排列といふのは家族生活、社會的生活、國家的生活、宗教的生活、科學及び工藝生活といふやうに分類するのである。最初獨逸のハウプトによつて唱へられ、歴史教材を五群に分つて排列せられた。第五連合法といふは、歴史教授を他の教科と連合せしめんとするものである。最初之を唱へたのはハルニツシユである。兒童を圍繞する世界によりて初めは家庭、次に學校、鄕土、最後に一國といふやうに次第に擴張するものである。其の他、第六傳記體、第七編年體、第八紀事本末體、第九地理的開展法などがある。

さて國史教科書を編纂するには、それ〴〵順序があるが、其の據る所は重に記錄である。記錄の中、六國史をはじめ吾妻鏡、德川實記などは政府の記錄であつて最も貴重な根本史料である。其の他の官公文書はもとより年代記、公私の日記等の如く後日の備忘に供したものもあり、手紙、消息、建白文、外交文書、商業用書類にいたるまで廣汎にわたる範圍のものが含まれ、其の外、傳記、回顧錄、自叙傳などもある。また古城址、古戰場、古都市、墳墓など一切の遺跡遺物は勿論、建築、彫刻、繪畫、衣服、調度、武器等あらゆる遺物はこと〴〵く研究の資料となる。また言

葉の變化、風俗習慣や口碑、傳說、和歌、物語、逸話などにも時代の反映があらはれてゐるから、絶好の資料である以上の資料は廣汎なる範圍にわたり、而も六國史以下の根本史料の如きは頗る浩瀚に渉るのでこれを渉獵することが容易でない爲に、其の要點を拔萃したものがある。其れが卽ち編纂物である。編纂物にも粗密大小の別があり、大日本史、野史の如きは稍々詳細に亘るけれども日本政記、國史略の如きは更に省略したものである。これを更に省略しコンデンスしたものは小學校用國史教科書である。

第二　歴史教材としての記錄

前に歴史教育の目的は「歴史的存在の自己」を覺醒せしむるにあり、「歴史的存左の自己」を意識せしめるには歴史を求むる心、自己を求むる心を喚起するにあることを述べたが、小學校令施行規則に「國史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼ネテ國民タルモノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス」とあるのも同じ意味である。つまり國民たるの志操を養ふことは國民精神を養ふことであり、國民精神を養ふと云ふのは畢竟「歴史的存在の自己」を覺醒せしめることであるからである。其れ故、歴史教授に於ては絶えず生きんとする生命を躍動せしめねばならぬ。然るに記錄は死灰の如きものであつて其處には活潑々地の躍動もなく生命もないのである。今の歴史教師は單に記錄を記錄として兒童に傳へんことにのみ腐心し、兒童は死灰の如き記錄を記憶することにのみ浮身をやつしてゐるから、日本精神に觸れることもなく日本魂を躍動せしめることもない。國民精神は歴史生活に發現する所の眞の偉大なる精神、偉大なる魂を躍如たらしめて、深く兒童の琴線に觸れしめ、心と心と觸れ合ふことによつて覺醒せられるのである。教師も兒童も日本精神の中に沒入して歴史に流るゝ生命と自己の生命とが合一する時、はじめて歴史教育は精神を作り魂をつくることが出來るのである。この意味から云へば、國史教育は決して何時、何處の誰れかが何事をしたかといふことを知るのみではなく、現代の自己を求むるものである。遠い〳〵昔を求むるのでもなく、五百年乃至二千年の過去を求むるのでもなく、脈々として自己の血管中に流れる心を求めるのである。前に擧げた時宗の例について云ふならば、七百年前の昔に於てのみ存在せし歴史精神ではなくて現在もあり〳〵と存在するところの日本精神である。時宗等のみの心ならず現在吾々の心でもあるのである。過去の史實、記錄を知らしむるにはあらず、現代の自己、現代の國民、現代の國家共のものを明徵ならしめるのである。かくして日本精神は兒童生活の中に生き、兒童の血となり肉となるのである。若しこれが無かつたならば、歴史教育は何等兒童の生活に必要なきものであるのみならず、兒童に無益な過重な負擔を强いることになる。されば米國の教育學者ヂュエーは「歴史科は單に記錄を教ふる者ならば普通教育（國民教育）として之をおく必要はない」といつてゐる。なほ玆に歴史を記錄として教ふることから生ずる弊害をあげて見よう。

一、記錄として取り扱ふ時は誰が何年に何處で何をしたかといふことを主眼とするから、おのづから教材は斷片的となる。從つて兒童は想像力、推理力、判斷力を用ふることなく常に機械的記憶にのみ訴へることになる。

一、記錄は客觀的に史實を取り扱つてゐるから兒童は知的差別觀をするにとゞまり、史的現象を主觀の中に躍動せしめることが出來ない。

一、記錄は多く第三者の立場にあつて記載するのであるから、動もすれば史實と史實との間に聯絡を缺き、孤立的の史實を列擧するやうになり、或る事件（史的現象）について必然的の因果關係を辿ることなく、偶然的に羅列することが多い。隨つて兒童生徒は孤立的に偶然的事項を單に機械的記憶又は頓智的記憶に訴へる一時的諳記に止まつて永久的記憶とならないといふ弊に陷る。

一、少青年の心理發達の狀態を見るに、はじめ感覺、知覺から始まつて記憶力が旺盛になり、すつと成熟するに從つ

て想像力、推理力、判斷力がはたらくやうになる。ちやうど小學校から中學校初年級までの間は、記憶力が最も旺盛であるから、何もかも記憶に訴へたがる傾向がある。それ故教師がよほど能く指導しないと何もかも記憶、譜記にのみ訴へるやうになり、之が爲に想像・推理・判斷などの高尚な智的作用が鈍くなり痲痺することになる。記憶は低級なる心理作用であつて記憶力のみが發達すると、模倣の本能のみが助長することになる。日本の國民性には模倣性も一つの短所であるといはれてゐるが、歴史教授で記憶力のみを旺盛ならしめる時は、國民性の短所を助長させるといふ非難を受けねばならぬ。模倣性が助長せられると、之が爲に發明發見などの能力に乏しく、單に他人の模倣に甘んずるといふ習慣を訓致することになる。この點から見ても、記憶力のみを旺盛にすることは教育上最も戒しむべき所である。

一、記錄と眞の歴史との差異點をあぐれば、

第一、記錄はとかく斷片的に陷るに反して、眞の歴史現象其の者は繼續的であつて決して一足飛びといふことはないのである。

第二、記錄は孤立的なるに反し、眞の歴史は相關的であつて因果關係によつて結びつけられてゐる。

第三、記錄は偶然的なるに反し、眞の歴史は必然的に繼起せらるゝものである。それ故眞の歴史現象は必然的に繼起されるものとして有機的因果關係によつて結びつけられるが、記錄は動もすれば機械的記憶に墮する恐れがある。

第四、記錄は客觀的なるに反し眞の歴史は史的現象を主觀の中に躍動せしめ、眞の偉大なる精神、偉大なる魂が少青年の心に生き〳〵として躍動するのである。

第三　神話に關する教材觀

近ごろ、岡田内閣當時から國體觀念を明徴にすべきことが高調せられ、總理大臣の訓示にも政黨の政綱にも國體明徴が强調せられ、世擧つて國體擁護を第一義とするに至つたことは國史教育に當る吾々の意を强うするものである。其れにつけても吾々國史教育の任に當るものは一層國史教育の徹底を期し國家社會の寄託に報ゆる所がなければならぬ。而して國體の精華は遠く神代の昔に淵源してゐることは今更云ふまでもないことであるが、或る教育家の中には神話の取扱に關して頭をなやましてゐるものがある。神話は口から耳に言ひ傳へ、語り繼がれたものであるから聞きちがひもあらうし、覺えちがひもあるであらう。又或るものは說話を面白をかしくしようとして針小棒大に話したり、想像をまじへて言ひ開かせたものがあつたらうから、其の間に史實がゆがめられて眞實を失ふこともあつて歴史としての價値が無いと信ずるものもあるやうである。これは謬れるの甚だしきものである。パウルゼンは神話の教育的價値を述べて、神話の教育的價値は史實其の者ではない。神話の核心其の者だけでもない。ちやうど果物に果肉果穀核仁のある如く神話にも核心たる國民的英雄と、これを修飾し理想化する所の傳說とに分れたるが、果肉、果穀によつて核仁が保護せられ榮養せられる如く、修飾されたり理想化されたりする所に日本精神の正體が攫まれるのである。卽ち核仁果肉果穀全體が一體となつて神話を構成し、神話全體が國民教育の上に大きな効果を齎すものである、といつてゐる。

抑々人類は原始時代の智識の程度至つて低い時でも、己等の祖先若しくは英雄の事蹟を物語り之を子供に傳へんとする歴史性を持つてゐるから、口から耳に傳へて子々孫々に語りつぎ言ひ傳へたがるものである。これを傳說といふ。ところが、この傳說は五代十代とたつに從つて祖先もしくは英雄の事蹟は益々修飾せられ、誇大にせられ、理想

化せられ、神聖にせられて己等と全く境遇の異なるものと考へ、超人間としてこれを崇拜し、神異奇怪の挿話を加ふるやうになる。卽ち人間ではなく神であるとして神格を與へるやうになる。だからこれを神話といふ。例へば支那の神農・黄帝・堯・舜などの事蹟も後代の人が修飾し理想化して聖人とか、神とかにしてしまつたのである。ギリシアのイリアッド及びオヂッセイの如きも傳說卽ち神話であり、舊約全書にあるイェホヴァの神や創世記、ノアの洪水の話、出埃及記、モーゼの十戒なども皆傳說であり神話である。西洋では十九世紀のころ唯物論が盛になり科學的研究が起つた頃、イリアッド・オヂッセイの詩篇は凡て揑造說で荒唐無稽のものであるとして排斥したのであつたが、ドイツのシュリーマンといふ人が神話傳說には核心卽ち眞實の部分が含まれて居るから修飾された部分を除き去らば、必ず眞實の歴史が究明されるだらうと考へ、傳說にあるトロイ・ミケーネ等の古域址を發掘したところ、果して古代の遺趾、遺物が發見された。西暦一八七〇年乃至一八九〇年のことである。これより神話研究が盛に起り、神話學といふ一科をなすに至つた。かくて神話學は言語學や民族學、考古學、人類學、宗教學などの研究と相須つて歴史研究の上に大きな功績を殘した。

さて神話成立の要素は(一)當初より史實其のまゝ、言ひ傳へられた部分(二)言ひ傳ふる間に變化修飾せられた部分(三)後代の構想に成れる部分の三つより成れるものである。我が國の神話でいへば、天照大神以下五代の神々と素戔嗚尊、大國主命とは(一)に屬するもので、核心卽ち眞實の歴史であり、天岩窟隱れ、八岐大蛇の如きは(二)に屬するもの卽ち修飾の部分であり、大八洲島生成の話の如きは(三)構想に成れる部分であらう。

さて神話の國民教育としての價値については、、パウルゼンの云ふ如く傳說化せられ誇大にせられた祖先の偉業は青年に理想化せられ觀念として攝取せられ、遂に意志の上に作用せられるものである。ギリシアのアレクサンドル大王の母は其の子に向つて常に「汝は古英雄アレキシスの子孫である、汝の祖先の名を辱かしむるなかれ」と敎へ、大王は自ら古英雄に私淑して大成したのである。又古代ローマ人は軍神マルスの子孫であると信じ、祖神に恥ぢないやうに努力し剛勇なる軍人精神を作つて世界を征服したのであつた。西洋人は今でも舊約全書の傳說を信じて基督教精神を養ひ厚き信仰心を以て道德を堅持してゐる。西洋諸國では小學校、中學校なども每週二時間以上の宗教の時間を課して舊約全書、新約全書を敎ふるのは智識よりも道德信仰が人格を向上せしめるからである。

吾々國民は皇室を宗家と仰いで尊崇し皇室の御祖先たる天照大神を國祖、天祖として崇拜してゐる。この祖先崇拜の俗と忠君愛國の精神とを馴致して萬國に比類なき國體と國民性とを形成するに至つたのである。其れ故國民精神、國民思想、國民信念の淵源は實に神話にありと云つてよい。

次に神話の取扱方について述べよう。新井白石は神代の事を神業とせず之を人事として解釋すべしといつて高天原は常陸の國であり、天安河原は常陸國久慈郡高市で、綿津見は新羅、常世の國は支那であると定め、解しがたき事があればこれを比喩と見做し、天浮橋は舟を意味し、八岐大蛇は山八ツ谷八つにわたり領有してゐる所の賊を喩へたものであり、諸冊二神の大八洲を生むといふのは誕生でなく開拓の意味を喩へたものであると斷定した。當時は、神話學の開けない時代であつたから、白石は後代の思想から推し測つて合理的であるやうに引き直さんとしたのであつた。これは大きな過ちである。本居宣長の神話研究の態度は白石にくらべてずつと進んでゐる。國語の語原や語意を解釋し、神話を研究して上代人の思想其のものに觸れんことを努め、日本は神國であるとしてある。宣長の著はせる古事記傳四十八卷は一生の心血を濺いで完成したのであるが、吾等國民教育にあたる者は本居宣長の研究の態度を學び、明治大正後進歩せる神話の研究に基づいて建國の悠久なることを知らしめ、皇室の尊嚴なる所以を明かにし、國體の觀念を明徵にするがよい。神話を神話として傳へ、傳說として知らしめ、吾等祖先の信じて來た其のまゝを兒童に信ぜしめることによつて國民信念、國民意識の出發點とすべきである。西洋諸國が學校教育でバイブルの天地創造

の物語、ヘブライ民族の古傳說よりキリストの奇蹟などまでをも敎へてゐるなどは吾等の學ぶべき所である。神話に淵源を發してゐる建國の精神、祖先崇拜、神社崇拜の思想に同化して行く間に我が國は神國なりといふ思想觀念が養はれ、國體觀念が明徵にせられるのである。

第四　國體に關する敎材觀

國體とは何ぞやといふことについては人により學者によつて其の解釋を異にするが、法學者の說によると、一國の統治權卽ち主權の所在を標準として君主國體と民主國體とに二大別してある。民主國體にはフランスやアメリカ合衆國を始として南米諸國及び世界大戰後に起つた歐洲の諸小國があり、君主國體には日本を始としイギリス・イタリアなどがある。しかし同じ君主國體といつても我が國とイギリス・イタリアとではちがつてゐるし、イギリスとイタリアとの間にも大變な相違がある。

さて我が國體は建國の始祖の理想、建國の事情に其の淵源を發し、國民の理想、信念及び歷史が益々國體の堅實發達を增進して來た。建國の始から全國民は天皇が絕對神聖の現人神であらせられ、萬世一系の皇統は連綿として絕ゆることなく君臣の關係は永世不易であることを信じ、皇室の御祖先天照大神を始め奉り、八百萬神一切の神祇は寶祚の無窮を擁護せらるゝものとして皇室を奉戴する心と神祇を崇敬する心とは相一致して玆に尊皇敬神の日本精神をなしてゐる。卽ち(一)萬世一系の主權者であらせられること、(二)神聖にして犯すべからざる主權者であらせられることと(三)主權者と國民とは密接不離の關係にあることは國體の精華である。換言すれば君臣一體、一君萬民といふことは是れである。深作安文博士は

國體とは國家組織の體裁であつて其の內容をつくるものは建國の事情と其の國の歷史とである。

と解し、故穗積八束博士は

國體は客觀的に見たる國家の形式を指すのみならずして、主觀的に見て邦人の信仰のある所は卽ち歷史を作る重要なる要素たることを知らざるべからず。換言すれば國民の信仰は歷史の結果にして又歷史を作る原因なり、國の主權の所在は國民一般がしかく信仰して疑はざるに於て定まる。

と言つてゐる。

國體と國民性とは密接の關係にあるので、國體が國民性を造り上げるに最も有力なる原因となり、國民精神は國體を擁護堅持して萬古不易ならしめたものである。さて國體は國民性に根ざして枝も榮え葉も茂り實を結ぶのであるが、若し國民性が國體の發達を助長し培養しなかつたならば、其の根幹が枯れ果てゝ仕舞ふであらう。かくて國體は次第に薄弱となり國體思想も常に動搖不安を免れない。フランスの國民性が夫の悲慘なる大革命を起し、國體を變革した例に見ても、國體と國民性とは互に相影響して離るべからざる關係にあることを知ることが出來る。

國民精神は國民の特異なる性質に基づき、時代の推移に伴つて進化發達して來たのであるから、建國以來の史實を重視しなければならぬ。國民性については諸學者の研究がある。芳賀矢一博士は國民性十論を著はして第一、忠君愛國、第二、祖先を崇び家名を重んず、第三、現世的實際的、第四、草木を愛し自然を喜ぶ、第五、樂天落洒、第六、淡泊瀟洒、第七、纖麗纖巧、第八、淸淨潔白、第九、禮節作法、第十、溫和寬恕とし、深作博士は第一、潔白性、第二、快活性、第三、現實性、第四、禮讓性、第五、同化性、第六、進取性、第七、節度性、第八、淡泊性とし、鈴木友吉氏は第一、溫順性、第二、潔白性、第三、現實性、第四、寬容性を根本的のものとし、第五、尙武性、第六、尙美性を加へて六國民性としてゐる。しかし國民精神の根本をなし國史を貫いて重要な役割をなしてゐるのは、家族制度とこれより派生した祖先崇拜の風俗とである。これは報本反始忠孝一本の國民性に根ざしてゐるが、日

本以外の諸國には曾て見ることの出來ない所である。道德から出發して信仰に入り遂に宗教的信仰とまでなつたのである。

第五　皇室に關する教材觀

忠君愛國は國體維持の中心思想であつて、我が國民性の著るしい特質の一つである。我が國に於ては君臣の關係は恰も親子の如くであるから、古來義は君臣にして情は父子の如しといはれてゐる。親子の間が自然の絶對愛で結ばれてゐる如く歴代の天皇は親の如き愛を以て國民を撫育し給ひ、臣民は親に對すると同樣な敬愛の情を以て天皇を仰ぎ奉るのである。であるから、歴代の天皇の御詔勅を奉讀すると、言々句々悉く恩愛と情誼とに溢れて居り、後代の吾々に取つてはたゞ忝ない有りがたい勿體ないといふ感激に充たされ、涙なしには讀了し得ないほどである。然るに歴史教授の實際を見るに、教師は頻に「忠君愛國なれ」と口癖のやうに云つてゐるけれども、殆ど天皇の御仁慈、御恩愛の實話をしない。内容を與へずに唯「忠君愛國なれ」とくりかへす丈では、まるで押し賣りするやうの態度ではないか。小學校も中學校、高等女學校でさへも歴代詔勅集一部を備へてあるところは甚だ稀である。前に述べた通り、皇室を中心とする日本教とも云ふべき宗教的信仰（國民信念）を涵養するが國民教育の主目的であるとせば、歴代詔勅集は基督教徒のバイブル、佛教徒の經文に比すべきものではないか。一冊の經文、一部のバイブル無き信者は何處にあるか。この點については深く〳〵國民教育に當るものの反省を促がす次第である。今歴代詔勅集から數例を擧げて參考に供しよう。

仁德天皇の詔

君は百姓を以て本となす……百姓の貧しきは朕の貧しきなり、百姓の富めるは朕の富めるなり……

光仁天皇の詔

民を以て心となす、之を育つるは仁后(君)なり……

嵯峨天皇の詔

百姓足らざれば君孰れと共にか足らん……

嵯峨天皇の詔

豈に民危くして君獨り寧く、子憂へて父念はざるものあらんや……

仁明天皇の詔

諸國飢疫……其れ朕の服御物並に常膳は宜しく省減すべし……

仁明天皇の詔

神を敬すること在ますが如く、民を視ること子の如し……

文德天皇の詔

民心苦めば國以て災を挺す……

清和天皇の詔

國宰は民の父母なり、豈兒子既に其の憂にかゝり父母爲に流涕せざるものあらんや……

一條天皇の詔

若し人民無ければ誰によつてか君と稱せん……

後一條天皇の詔

朕の服御物常膳等の物宜しく累朝の例に准じ四分の一を減ずべし……

近衛天皇の詔

國は民を以て本となし、民は農を以て先となす……

また文武天皇の御代より明治天皇に至るまで御歴代の天皇に宣命文體を以て詔を宣布し給つたが、宣命文の首文又は末文には「必ず天の下の公民聞こし召さへと詔る」といふ詞をおかれた。天下の公民といふ漢字はオホミタカラと訓むやうにしてある。つまり天下の公民をば大御寶として天下の至寶として敬意をも表され愛撫し給つたのである。なほ天下公民といふ詞には、天皇は人民を公正に平等に愛撫せられ、常に公民の安寧と幸福とを御軫念あらせられたことを察し奉ることが出來る。世界は廣く萬國は多しといへども、かゝる御仁慈の歴代天皇が上に坐すことは全く類例を見ない所である。殊にデモクラシーは西洋から輸入した新思想のやうに思つてゐる人もあるが、我が國では歴代の天皇はデモクラシーの要求する公正を以て公民に莅まれたのである。

デモクラシーの思想について歴代の天皇が如何に進歩的の御考を持つてゐられたかの實證をこゝに擧げよう。後宇多天皇の御代に未曾有の國難が起つたことは何人も知る所である。この時、龜山上皇は蒙古調伏の祈願を籠められて福岡縣の筥崎八幡宮に御宸筆の「敵國降伏」の額を奉納せられた。八代國治博士は筥崎八幡宮に奉納してある「敵國降伏」の額を仔細に調査せられたが、其の報告によると、龜山上皇の御宸筆の額は三十七枚今も八幡宮に保存せられてある。この宮は建治元年七月に造營成り、遷宮の式を行ふ時に神體と共に御宸筆の額三十七枚を奉安せられた。其の額は縦六寸二分横五寸九分、錦の表裝であつて紺紙金泥の文字である。三十七枚の中一枚は敵國の國は口の中に王と書き国とし一枚は口の中に國と書いて國としてあるといふ。これによつて龜山上皇が國家は王と民とより成れるものであるとの大御心よりこの新文字を創められたことを拜察する事が出來る。さて明治四十四年支那に革命の起るや、革命黨員は從來の帝國を認めず、西洋より新に輸入したデモクラシーの思想にかぶれ、孟子の所謂天下は天下の天下なりといふ理想を實現せんとし帝政時代の制度を根柢から破壞して中華民國と改めて共和政を布いた。或る端極論も起つて數千年來使用し來つた文字をも廢して國を改めて國として當時新聞雜誌等にはすべて國の字を用ひ中華民國元年二月と書くやうになつた。これには保守思想進歩思想の何れもが其の大膽さ新奇さに驚いたのである。文字まで改造する必要もなからうと云つて冷嘲するものさへあつた。然るにこの新奇大膽の文字の創造は七百年以前、我が龜山上皇によつて試みられたのであつた。龜山上皇が如何に國民を愛撫し給ひ、國の大御寶であるとして國民を重んぜられたかを窺ふに足るのである。龜山上皇にはデモクラシーといふ外國語を御存じなかつたに拘らず、今より七百年前にデモクラシーの思想を御持ちになつて居られたのである。これ畢竟龜山上皇が親の子に對する如き大慈悲心を以て人民に臨ませられ人民を公正平等に御いつくしみ遊ばれてゐられたことを證明するものである。上皇は歴代天皇の大御心を傳承し給へるものであるから、歴代の天皇が人民が要求しないに拘らず、民本主義を以て君臨遊ばされてゐることを窺知することが出來る。

其の他、歴代詔勅集を拜讀すると、御仁慈深くゐらせられることはまことに有りがたく忝なく感ずることのみ多く、我が國の天皇ならではといふ感激に滿たされるのである。されば國民教育の任にあたるものは歴代詔勅集を座右に備へ經典として日夕之を拜誦してこれを兒童に傳へるがよい。かくする時は忠君なれ愛國なれといふ詞を用ひなくとも兒童は報恩感謝の念に滿され、忠孝の道を勵むに至るであらう。

第六　文化史に關する教材觀

文化史は政治上の變遷發達を背景として殆ど並行的に取り扱つて行くのであるが、文化史取扱について特に注意すべきことは、第一には横に各時代の知識を斷片的に與へるのみで、古今にわたり縦に一貫した考察を怠るやうのこと

のないやうにすることであり、第二には常に現代と照らし合せて現代の文化生活の因つて起る所の因由を理解せしむることを領得合點せしめるやうにすることである。

土地制度については、大化改新を說くにはまづ氏族制時代の土地制度を說明して後に公地公民の制、班田收授の法を知らしめ、中大兄皇子の兼併ニ天下一而可レ使ニ萬民一唯天皇耳とて率先して土地人民を奉還せられたことを說く時には、いつも明治維新の版籍奉還と比較させるがよい。勿論、莊園制度の發達や賴朝の守護・地頭より鎌倉時代、吉野時代を經て德川時代の知行制度に至る變遷を述べて現代に至るまでの伏線とすべきは勿論である。この間、絕えず現代の生活を照し合せることを忘れてはならぬ。

大寶律令の制度については、支那の唐制に本づくことを知らせると共に、令外の官が設けられて次第に日本化して唐制の色彩を失ひ、武家時代になつては全然日本特自の立場より制度を立てたのであり、貞永式目御定書百箇條など武家時代に順應した制度を創作したものなるを知らしめ、明治時代に至りて西洋の制度に則り我が國情にあはせ考へて現代生活に適應させるやうにしたことを理解せしめる。佛教については傳來の初、崇佛排佛の二派に分れて爭ひ、神國たる我が國情と相容れざる所もあつたが、聖德太子出で給ひて我が國體國民性に適合せしめるやうにし、奈良時代には朝廷の信仰と奬勵によつて隆盛を致し、平安時代に至つて神佛同體說起り、我が國敎のやうになつたことより、鎌倉時代に前時代の自力敎義に反し、他力敎義起つて民衆の信仰となつたことを說き、戰國時代、德川時代を經て現代に及んだことを、因果關係と時代思潮の變遷より說明するがよい。

佛敎に因みて美術工藝の變遷を說き、法隆寺式、天平時代、日本文化時代、東山時代、桃山時代より德川時代までの推移を知らしめて現代の美術に及び審美的趣味を涵養せしむるをよしとす。

學問につきては支那より傳來した漢學より平安時代に片假名、平假名の使用始まり、外國の模倣から脫して日本獨得の文字卽ち和歌、國文の發達を知らしめ、降つて德川時代の文運復興に及び、明治新文化の特色を現代生活に卽して說明すべきである。

以上の外、經濟史、社會史（風俗史）等に至るまで、其れ〴〵一時代の文化層を貫く共通點を見出しつゝ、縱に各種文化の變遷を一貫して考察せしめることが文化史取扱について大切なことである。要するに歴史敎育の現代化といふことは文化敎材を通じて忘れてならぬ要件である。

第七　外國史に關する敎材觀

我が國の國民敎育に於ては、國史を授けて我が國體の特異なる所以及び大義名分を明かにするには、外國の敎材を授けて國史の理解を助け、諸外國の國體及び國民性の我が國と異なる所以を明かにせんことに努めねばならぬ。我が國民の世界的地位を知り國民としての自覺を持たせるには廣く世界各國の國情を知り、國民性を知らねばならぬ。自他の比較によつて始めて眞の自覺が出來るのである。國史を敎授して偏狹な愛國心をあふるやうのことをしてはならぬ。眞の國民的自覺は他國民との對立比較によつてます〳〵明瞭になり强固ともなるのである。眞の愛國心は外國史を學び外國の情勢を知り世界に於ける我が國の地位を理解し益々我が國體、國情、國民性の特異なることを知るによつて始めて强烈となるものである。偏狹な愛國心は却つて國勢の發展を妨げることになる。故に國史を敎ふる際は外國史との對照をすることが必要である。然るに我が國の小學校敎師には外國史の知識に乏しく、まゝ偏狹な見解を以て國史を敎授するものがある。たとひ外國史敎材を取り扱ふ餘裕がないとしても、少くとも敎師には左の如き諸點について諒解し、其の頭で國史を取り扱はねばならぬ。

（一）　神代の敎授に於ては天祖◉神勅、大國主命の國讓りなどは外國に例なきことを知らしめ、支那では建國の初か

ら禪讓放伐の國體古制があり、西洋では古代のギリシア、ローマに選擧王制があつたことを比較するがよい。また古代ローマには祖神を祭る風あり、氏族制度も我が國に似たところがあるけれども、君民一家の理想を實現するに至らなかつたことを知らしめるがよい。

（二）神武天皇の紀元を說くときは、西洋紀元はキリスト誕生に始まることを敎へ、支那史も印度史も今より四、五千年前に始まり、エジプト等の如きは西洋紀元前四、五千年前であつたことを敎へる。支那の孔孟の敎は印度の佛敎と共に我が紀元二百年代であることを知らしめ、當時我が國の文化はなほ質素純朴であつて遙に支那印度の文化に後れてゐたことを知らしめる。またキリスト敎の紀元は我が紀元六百六十一年に當り、初代のローマ皇帝アウグスツスの治世であつたが、その初皇帝の廟を禮拜しなかつたため、我が排佛論者物部尾輿、守屋等が八百萬神の祟を招くことを恐れたのと同じ心理であつたことを知らしめ、西曆三世紀にコンスタンチン大帝が國敎としたのは我が國が佛敎傳來後、わづか六十餘年後、聖德太子の時、既に國敎の如く朝廷の保護を受けたのと比較すると殊に興味深いものがある。

これより先、ギリシアのアレクサンドル大王の東征は東西文化を融合し、印度藝術に影響を與へてギリシア藝術の樣式が加味せられ、其れより中央アジア・唐を經て我が佛敎藝術となり、大和の法隆寺に其の遺物を見るは歴史上の奇しき因緣であることをも敎へる。

（三）大化改新は我が制度上の一大改變であつたが、當時支那では唐の隆盛時代にあたり、制度文物大に備はり、文學藝術盛に起り、西洋では百餘年前に、有名なユスチニアヌス法典（ローマ法典）が編纂せられて法典史に一時期を劃したことに思ひ合せて、殆ど其の軌を一にすることを敎へる。この頃、東ローヤ帝國はコンスタンチノープル（今のイスタンブル）に都して餘喘を保てるに過ぎざるに反してマホメット（西紀六二二年）の建てたサラセン帝國は新興の勢を以て西アジア・北アフリカを席捲し百年ならずして西南ヨーロッパ、イスパニアを領し、唐とも貿易して東西兩洋の文化融合の端を啓けることを知らしめる。

（四）平安時代の文化を說くにあたつては、まづ支那文弱の弊と比較し、我が國は文字の國支那より輸入した文化を咀嚼同化し漢字の扁旁を取つて、國字を發明し、和歌國文は長足の進歩をなして國文學盛に起り、家屋、衣服、調度より美術・工藝に至るまで、我が國獨特の文化を創造し、所謂日本文化時代を現出したるは、支那・西洋にも多く其の比を見ざる所であつたことを高調するがよい。殊に西洋諸國ではローマ字を借りて自國語を發表したのは難澁なる漢學漢語を輸入するに比して遙に幸福であつた。しかし國文學の發達は西洋諸國（佛・獨・英等）の國民文學よりも數世紀に先だつてゐたことは我が國民の優秀を誇るに足るものである。

（五）武士の興起は藤原擅權時代であつたから、西洋諸國の封建制度の發生よりずつと後れてゐるけれども、第一回十字軍は我が後三年役後十年であり、第七回卽ち最後の十字軍は文永の役の直前であるから、我が院政時代より鎌倉時代の中頃までが西洋封建制度の全盛時代であつたといへる。武士道については面白い比較がなされる。我が武士道も西洋の武士道も强を抑へて弱を助け、主從互に恩誼の紐によつて結びつけられることは一樣であるが、彼にあつては飽くまで實利主義であつた。西洋では從臣は主君の爲に敵軍と戰ひ命を捨つるを義務とするけれども、一年に四十日間を限りとされてゐるから、若し戰爭が四十日以上繼續する時は戰ふ義務が解消されるといふことになる。一年四十日間以上出陣する時は計算的に從臣の損となるからであらう。又從臣には主君が捕虜となつた場合は償金を出して救ひ出す義務があつたが、敵は之を利用して成るべく多額の償金を獲んが爲に身分の高い、從臣の多い君主を捕虜とすることを計つた。若し敵を討死させては一厘の償金も獲られないから成るべく戰死せしめないで捕虜として償金を獲んことを計つた。其れ故、戰陣に臨んでも戰死する

といふことは極めて少なかつた。又西洋の武士道は婦人を尊敬し、神に事へることを第一義としたが、これも我が國の武士道と趣を異にしてゐる。今でも西洋人は我々から見ると、をかしいほど婦人を尊敬するが、女尊男卑の風は封建時代の武士道に淵源したものである。要するに我が國民の特異性を認識するには外國と比較するによつて愈々明瞭になるのである。

（六）元寇は、其の背景たる蒙古大帝國を說くことによつて深刻に我が國未曾有の國難であつたことを理解させることが出來る。蒙古大帝國は、源頼朝と殆ど同時代の成吉思汗によつて建設せられたので、（頼朝の死後七年に鐵木眞は成吉思汗と號す）、其の孫拔都が遠く東ヨーロッパに遠征し、都をヴォルガ河畔に定めて、殆ど今のロシア全部を統治したのは、我が鎌倉執權北條泰時の末年であつた。同じ成吉思汗の孫に忽必烈、旭烈兀の兄弟あり、旭烈兀は西南アジアを征服して伊兒汗國を立て、忽必烈は宋を征服して文永の役前十五年に皇帝の位に卽き、高麗を討ち、宋の首都を陷れて國號を元と改めた。彼が全アジアを呑むの意氣を以て來寇したのが、文永の役であつた。宋では文天祥勤王の孤忠も、失河の決潰する如き勢を阻むこと能はず、天祥は捉へられ、弘安二年宋帝は厓山の海中に溺沒したのであり、誠忠文天祥は弘安五年に慨然として國に殉じたのであつた。かゝる背景を持てる元軍と抗戰することは恰も硝子板を以て甲鐵艦の突嘴に當る如きものであつた。七百年後の今日之を想像するも、尙戰慄を禁じ得ざるものがある。是等は外國の情勢を知るによつて始めて日本精神の尊さを諒解することが出來るのである。

（七）吉野時代、室町時代にかけては西洋では英佛の間に百年戰爭が起り、この時ジャンダークの如き烈女が出て戰後兩國何れにも國民精神が盛になり、つひには國民文學が發達するやうになつた。我が國民文學の起つた平安時代より五百餘年も後れてゐる。イタリアに起つた古學復興もはじめはイタリア國民文學に淵源してゐるが、これはずつと前で、我が建武中興の前であり、しかも古學復興は文學のみでなく、建築・彫刻・繪畫などのあらゆる藝術の新生を促がし、後にはアルプス山北に擴まつて近世文明の新時期を作つたものである。我が足利將軍義政の時代は、西洋では封建制度が崩壞して中世史の終幕となり、東ローマ帝國は新興トルコ民族の爲に亡され、コンスタンチノープルはトルコの首都となつた。これは應仁の亂前十五年であつた。英佛百年戰爭の終つたのは同じ年であつたが、英國では二年を隔てゝ薔薇戰爭が起り、敵味方は紅白の薔薇を徽章とした。イスパニア王國が新に興つたのも我が戰國時代であり、コロンブスの新地發見、ヴァスコダガマの新航路發見もこの時代であつた。降つて我が天文弘治の戰亂時代には西洋では宗教改革運動が盛であつてローマ法王を奉ずる舊教徒とルーテル派、カルヴィン派等の新教徒とが對立してドイツ、フランス諸國は到る處で爭ひ、慘刻なる宗教戰爭を現出したことは我が一向宗一揆の比ではなかつた。從つてローマ法王による統一も、ドイツ皇帝による統一も行はれず、他面には佛獨兩國王の確執もあり國力均衡の說が考へ出され、次第に國際法の發達を促がすに至つたのである。この點は極東の島國である我が國と異なる。

（八）織田豐臣時代は、西洋でも新興の氣運が動き、新教徒たるオランダ人は獨立を宣言して舊教國たるイスパニアと戰ひ、新教國たるイギリスの援助を求めてイスパニアの無敵艦隊を擊滅して（天文十六年）イスパニアの覇權を失墜せしめ、自ら代つて世界第一の海運國となつた。德川幕府がオランダの通商を許し、遂に蘭學の興隆となり西洋學術輸入の端を啓いたのもこゝに因由するのである。

（九）西洋人の渡來を說くには、前後の二期に分つて見るがよい。前期はイスパニア、ポルトガルの覇權時代であつて基督教の傳導師が頻に渡來した。傳導僧はジュシュイット派であつて宗教改革に反對し、ローマ法王權擁護の爲に起つた教團で名を布教に比して西葡兩國政府の領土擴張の手先となつてゐたから、我が國が之を禁じた

のは寧ろ當然といつてもよい。併し秀吉家康時代に於ける邦人の海外發展の氣運が鎖國令のために頓坐したのは惜しいことであつた。

（十）寛永の鎖國以後二百年間は、西歐近世國家の興隆期にして西洋史上に一轉機を見たことを注意せしめねばならぬ。まづ佛國にはルイ十四世（一六四三―一七一五）が王位に上り、王權神授說を唱へて極端な專制政治を行ひ、內には工業を盛にし保護禁止の政策を行つて國富を增し、外には無名の師を起して隣國を侵略し、西歐の覇者を以て自ら任じたが、列强の指彈を受け歐洲半部を敵として戰ふに至り、何等得る所なくして和約を結び、間もなく病歿した。

ルイ十四世時代に、英國にも革命起り、オリヴァー、クロンウェルは、前古無類の民主政治を行つたが、國民に忌憚せられて煩悶の裡に自殺し、遂に王政復古を見るに至つた。しかし、クロンウェル時代は外交上最も活潑なる時代でオランダの海運業は航海條例の打擊を蒙つて、復た起つ能はざるに至り、英國は是より世界第一の海軍國となつた。

この間、英佛の植民地經營は異常の發展を遂げて、印度及び米大陸に於ては到る處に兩國の衝突を見るに至つた。五代將軍綱吉の頃、プロシア始めて王國と稱し、露國のペートル大帝は北方戰役を起して瑞典よりバルチック沿岸の地を取つて、新都ペテルブルグ（ペトログラード今のレニングラード）を築き、普・露兩國は他年雄飛の基をおいた。プロシアにフレデリック大王、露國にカザリン二世（一七六二―一七九六）出るに及び、舊國英・佛・墺と併せて近世五大强國といはれた。德川幕府創立後百五十年のことである。中にも露國は、早くシベリア經營に着手し、黑龍江の下流地方よりカムチャッカ半島まで侵略して我が北邊を窺ひ、カザリン二世は、イルクツクに日本語學校を創立して呑噬の爪牙をみがいてゐる。また、太平洋の彼岸にはアメリカ合衆國新に獨立して支那貿易に着眼し、其の中繼地として日本に寄港する必要を感じ、我が國に開港を迫るに至つたのである。世界の大勢から變轉して太平洋は歐米列國の海洋となつたから、我が國のみが鎖國の祖法を墨守する能はざるに至つた。

（十一）明治維新は國民の總動員、日本精神の總和になつたもので、世界近世史上に一大異彩を放つものである。まづ德川慶喜の大政奉還は日本精神の最も光輝ある發現であることを西洋史と比較するによつて深く兒童の心內に刻みつけることが出來る。殊に慶喜がフランス公使の援助をことわり、西鄕隆盛等を中心とする薩藩ではイギリス公使の後援を斷はつたことは、支那、印度、安南等が自ら亡國の道を辿つたことに比較して日本精神の優秀性を理解させることが肝要である。

次に版籍奉還の美擧はドイツ聯邦がヒトラー維新まで一統政治の實現し得なかつたことに比較することによつて眞意義が闡明せられる。若し西洋諸國であつたならば革命內亂の一大慘劇が演出せられたであらうことに思ひを致さば兒童も日本精神の絕大なることに驚歎するであらう。

欽定憲法の發布せられたことについても、西洋諸國の何れにも見ることの出來ないものであることを理解せしめ、憲法の內容については英佛米諸國のそれと比較して我が國體の特異なる點に注意せしむるを要する。

（十二）日露戰爭を說く際には、露・獨の世界政策は三國干涉に端を發してゐることより說き起し、ロシアのシベリア鐵道の延長、極東經營の進捗は、ドイツのカイゼルとの間に領解が成り、ドイツのバクダード鐵道と共に世界の通商運輸を壟斷せんとの恐ろしい計劃であつたことを想像せしめるがよい。はじめロシアは十八世紀の初よりバルカン南下を策し、之が爲に近東問題は西歐外交家の尤も頭を惱ました所であつたが、ニコラス二世はシベリア鐵道を經營し、日淸戰爭後、日本をして大陸に一歩を踏み入れしむることは恰も白紙の隅にインキをこ

ぼした如く、忽ち全大陸に擴まるべしとて、三國干渉によつて遼東半島を還附せしめ、カシニー密約によつて南滿洲に地歩を占め、北清事變に托して大兵を滿洲に送り、柳樹地以下二十七村を全部買收して、玆に陸軍司令本部と、幾十百萬の大兵を入るべき兵營を建造する計劃を策し、旅順港を太平洋艦隊の根據地とし、大連港をシベリア鐵道の終點とし、露國海外發展の玄關口を東向に改めようと計劃し、數年間に竣功する見込みであつた。若しこの計劃成功せば、シベリア鐵道は世界工業地帶たるヨーロッパと支那四億の人口を有する消費地帶とを連絡する唯一の線となるべく、太平洋艦隊は支那海・日本海までの制海權を掌握し、幾十百萬の陸軍が遼東半島に根據をおかば、陸海軍通商共に日本はロシアの鼻先を窺ふ外なく、獨立國としての體面さへ保ち得ないであらう。これとならんで、ドイツではトルコ皇帝を懐柔して經營に着手したバグダード鐵道が竣功せば、人口約四億を有するベルシア、印度等の消費地帶と、歐羅巴工業地帶とを連絡する唯一の線となるであらう。かくしてヨーロッパとアジアとの通商は、露獨二國によつて壟斷せられ、英國の海運業は、忽ち衰微するであらう。これ英國が名譽の孤立と誇稱せる因襲を打破して日英同盟を約し、後には、英佛協商を結んだ所以である。かゝる世界的背景を知ることによつて、日露戰役が重大なる使命を果したことを領解させ得るのである。かくてロシアはこれまで玄關口をバルカン半島方面より東向にせんとしたが、日露戰爭の結果、東向の玄關を再び南向にせねばならなかつた。ところがバルカン半島にはオーストリアの勢力當るべからざるものあり、玆に世界大戰となつたのである。

（十三）　現代史では國際聯盟の意義、聯盟と我が國、聯盟とアメリカ合衆國との關係、イタリアのムッソリニ、ドイツのヒトラーの政策について大要を知らしめ、滿洲事變、滿洲國の獨立、支那の國情、日支の關係、我が國の滿洲國承認及び聯盟脱退、說退後の日本については、つとめて現代生活に觸れしめるやうに說明するがよい。

六　教授の法式

歴史教授を徹底せしめんには國民教育の目的と兒童の心理發達とを考量しつゝ歴史科獨自の立場に立つて國民教科としての使命を果すことを期せねばならぬ。教授の方法なり學習なりはすべて此の見地から導き出されねばならぬ。それ故、こゝでは歴史科の本質からではなく、國民教科としての使命を果すための効果能率如何といふ見地から檢討しようと思ふ。

(一)　自學自習式

アメリカのパーカスト女史の唱へたダルトン案が我が國に傳へられてから、歴史教授に於ても、之に基づいて自學自習の方案が立てられ、其の後勞作教育といふことがドイツから傳はつてくると、自學自習の風が益々盛になり、說話中心の歴史教授は講演式とか注入教授であるとして非難せられるやうになつた。

然らば、實際の歴史教授に於て如何にして兒童の自發的活動を指導して自學自習せしめるかといふに(一)家庭で教科書を自習せしめて疑問の點を提出せしめ、これについて教師が說明するもの、(二)あらかじめ問題を課して教科書以外の參考書について調べさせ、問答法によつて教授をすゝめるもの、(三)あらかじめ自習せしめおき、教授時間に兒童をして教師に代つて發表せしめるもの、(四)教授時間の初に默讀自習せしめて後問答式によつて教科書の記事を敷衍してゆくもの等は普通見るところのものである。而して自學自習法を行ふ場合には必ず教科書以外の參考書を持たせるか、學校圖書室に參考書を備へつけて教科書の足らざる所を敷衍することを常とする。

されば自學自習の指導法の歴史教授に及ぼす効果如何といふことが重要な問題である。(一)の場合は智識の程度の低い歴史上の用語も何も知らない兒童に、教科書參考書を持たせて自學自習させるといふことは隨分無理な非教育的の遣り方である。兒童の心理の發達上、害あつて益なしといふべきである。隨つて歴史の眞の理解なくして提出した疑問は何等價値の無いものであるばかりでなく、事の輕重大小をわきまへず、因果の關係も知らず、年代の順序もなく、提出するのであるから、これに基づいてする所の教師の説明は支離滅裂で聞くに堪へないものであつたことは筆者の屢々實驗した所である。(二)の場合は、兒童が有害無益と思はるゝ參考書(次節に説明してある)について調べたのであるから、其の答は誤謬だらけで、而もつまらぬ些事の穿鑿に終ることが多い。また死灰の如き記錄の記憶暗記を強いる結果になる。(三)の場合は肉も血もない骸骨の如き教科書を生硬のまゝ發表するから、何が何だがちつともわからず聞くものの方がうんざりする。かくては歴史教授はいやな時間として兒童から嫌忌せられるに至るであらう。(四)の場合も(一)と大差なく只教授時間前數分間に限られてゐるから、其れ丈兒童は助かると云ふべきである。

(二) 教科書・參考書について

自學自習法の生命とも云ふべきは教科書及び參考書であるが、教科書は兒童の負擔を輕くするために分量を極度に少くしてゐるので、其の記述する所は極めて簡單で、しかも抽象的の記事が多い。從つて之を讀む兒童には面白味も甘味もなく、趣味も起らない。恰も蠟を嚙む如くであり、肉もなく血も通はない骸骨の如きものである。其れ故、教師は説話を中心にして歴史上の人物を其のまゝに描き出して兒童をして血湧き肉躍るといふ感を起させなければならぬ。玆に兒童自身が歴史中の人物となり其の時代々々の舞臺に躍り出すのである。かくてこそ歴史上に展開された日本精神と兒童の心内に潜める日本精神とが合致して過去もなく現在もなく將來の發展といふ生命、創造力をさへ馴養せられることになる。かうして得た日本精神は實に永久不變不死の尊いものである。これ等は教師の説話によつてはじめて齎らされる効果である。若し説話の後に教科書を讀ませるならばたとひ教科書は骸骨の如きものでも、兒童自身で身も肉もつけるから、讀んで行く間に史上の人物が眼前に映ずるであらう。であるから教科書は授業の終に讀ませて概括綜合のはたらきをさせるがよい。

次は參考書についてであるが、外國では史學界の泰斗、權威者が小學校兒童用又は中等學校生徒用の歴史を澤山書いてゐる。博學在レ約レ之といふ金言があるやうに、實に能く出來てゐる。然るに我が國の學者は權威を傷づつけるとでも思つてゐるのか。立派な研究論文や大著述をしてゐながら、小學校兒童や中學校生徒に讀ませるやうな小さい通俗的のものをちつとも書かない。其れ故、坊間に驚かれてゐる小學校兒童、中學校生徒の參考書は材料の取捨選擇排列がなつてゐないばかりでなく、誤謬が多く歴史教授の本質から批判すれば寧ろ兒童生徒には有害の書であるといひたいものが多い。つまり書肆が金儲けにいかゞはしい著書をかきなぐらせて試驗問題集や暗記に便利な表解式のやうな解説ものを出版發賣してゐる。自學自習式教授法の生命とする教科書參考書が斯くの如しとせばつまり自學自習式の自殺であり自滅である。

(三) 問答式

自學自習の教授に於て教授時間の大部分を占めるものは、問答教授であるが、問答式はまことに結構のことで、按例如何によつてはうまく兒童の心的活動をさせることが出來るのである。しかし、實際見た所では昔しの開發教授といふ形式に囚はれて、只機械的に發問するに止まり、之が爲に折角油の乘つて來た説話を中斷したり、又は兒童が暗誦してゐる文言を鸚鵡返しに答へるのみで、兒童の心意の發達を助長させる効果もなく、史實の有機的關係を考へさ

せる樣のこともない。時としては兒童さへも馬鹿げた分り切つた發問であるとしてちつとも注意をひかないこともある。勿論これは他科について云ふのではなく、歴史教授の場合だけに言ふことである。問答法をうまくマスターし得る教師はよほど卓越した教師でないと出來ないものと見える。

次に教科書の敷衍について一言する。これは十分材料を精選してつまらぬ些事の穿鑿に流れぬやう、また妄りに兒童の負擔を重くし暗記事項を多くするやうのことなきやうに注意することが肝要である。歴史教師は特に史眼を開いて生きた歴史現象を時代の委其のまゝに描き出すやうにすることが大切である。形式の如きは「細工は流々仕上げを御覽」といふ諺の通りである。

(四) 板書式

普通に行はれてゐる歴史教授に板書式とでも名づくべきものがある。教師は整然と項を定め目を立てゝ説明しながら板書する。そして多くの場合、兒童は之を寫し取るのであるが、ノートにはうそ字や誤謬が非常に多い。教師が定期的に之を檢閲するらしいけれども、六、七十人の兒童の筆記した所を大急ぎで見るのであるから、檢閲は名のみで、實際はうそ字が訂正されるでもなく誤りが正されるでもない。人間の勞力には限りがあるから無理もないことで教師を責める方が無理であるから、寧ろ筆記させぬ方が萬全の策であらう。

さてこの板書された項目や圖解は孤立的の事實を集めるのみで、史實相互の有機的關係は、みな、ずた〳〵に寸斷せられて其の背後にある人間全體なるものゝ輪廓を捉へることが出來ない。時代そのまゝの姿を描き出すことは出來ない。例へば人間全體なるものゝ輪廓、時代其のまゝの姿がキンストレイキの如くであるとすれば、板書せる項目や圖表はキンストレイキを寸斷して胃腸も神經も靜動脈も皆寸斷されて亂雜に机上にならべられた樣なものである。これでは專門の解剖學者の外は何が何だかわからない。

ディルタイは歴史は生である、生活である、歴史の中に生あり、生の中に歴史があるといひ、クローチェは現代の歴史が直接生に源を發する限に於て過去の歴史も生に由來するものであるといひ、リットは歴史は過去によつて現在を理解することであり、過去による現在の理解から將來への展開にまで進むものであるといひ、ジンメルは歴史の問題は單に認識されたのみに止まらず、感ぜられたもの、意欲されたものをも理解されねばならぬといつてゐる。彼はまた歴史は對象の單なる映象や受容ばかりでなく、精神の作用による創造的形式であるとなし、歴史は過去によつて現在を理解するのであるといつてゐる。要するに歴史は決して孤立的な要件を集錄することではない。常に目的を自覺し、求められたる全體をつかむことに努めなければならぬ。歴史の考察は過去より現在に及び、更に將來にまでも及ぼさるべきであるとすれば、單に過去の史實を集錄せしめるに過ぎない所の板書は、歴史と緣の遠い作業であるといはねばならぬ。反言すれば板書は歴史教授の外道である。

(五) 講演式

教授法の形式に講演式とでも云ふべきものがある。これは最も早く開けた教授法であつて、大學、專門學校等では主としてこの講演式を用ひて居り、多衆を一堂に集めて講演するもこの式によるのである。講演式といふ名もこゝから起つたのである。然るに之を小學校、中學校の兒童生徒に教授する場合に、其のまゝ之を適用することには異論がある。何故なれば、講演式はたゞ兒童生徒をして受働的に聽き取らしめるのみであるから、動もすれば注入主義に流れて兒童生徒に心理的活動の餘裕なからしむるからである。問答式教授の盛に唱へられたのはこの注入主義、受働主義の弊を矯めんが爲であつた。しかし講演式必ずしも注入主義を伴ふものではない。講演を聽く間に、兒童生徒が既得

の知識を活動させて舊觀念と新觀念とを聯合させて所謂聯想作用を起すから靜座聽講する間も、絶えず心理活動をしてゐるのである。たゞ講演式といふ詞が注入主義、受働主義を聯想させるのである。其れ故、歴史教授の上では講演式といはず說話中心の教授といひたいのである。これから說話中心の教授が歴史教授の上乘であるといふことを述べて見たい。

(六)　說話中心の歴史教授

ドイツのマクスミューラーは「歴史はドラマの如くであるが、唯歴史がドラマと違ふ點が二つある。其の一つはドラマでは作者と演者とが別人であるが、歴史では、演者自身が作者である」といつてゐる。ドラマは文學者、劇作家によつて創作せられたものを俳優が演出するのであるけれども、歴史では史上の人物自身が創作をなしつゝ演出し、演出しつゝ創作するのである。豐臣秀吉自身が演者でありながら演出しつゝ創作をして行くのである。朝鮮征伐の如き自ら創作し自ら演出した如きは慥に其の例である。

歴史とドラマとの第二の相違はドラマは一たび作者によつて創作せられた上は、俳優は何時までも其のまゝ演出せねばならぬ。たとへ小部分の改竄が加へられるとして創作者を尊重せねばならぬ。然るに歴史は彼自身の理想を有し、其の理想を實現することに努力するけれども、中途で先の理想を捨てゝ新しく創作し新しき事業を遂行することも出來る。例へば秀吉は文祿の役を起し講和條約を結ばしめてから更に自ら慶長の役を起し、最後に征韓の軍を引き上げさせた如きはこれである。されば歴史生活を幾十百幕に仕組んで劇を演ぜしむることによつて歴史教授の目的を達することも出來る。されどこれは實行不可能のことであるから、映畫劇に仕組んで歴史教授に利用することなどは面白い試みであると思ふ。

しかし歴史教授は本體として說話を中心とせねばならぬ。教師の說話は兒童生徒には演劇若しくは映畫を觀ると同等以上の効果があるのである。何故ならば、演劇にしてもトーキー映畫にしても、其の臺詞は作者によつて洗練せられたにしても、時代劇、世話劇其れ〴〵によつて六づかしいクラシックがあり、難解の時代語があつて、多數の觀覽人に不可解のところが澤山ある。之に反して教師は少數の兒童生徒に向つて兒童生徒の心理狀態を熟知し、兒童生徒の知らない熟字熟語を用ひないから、兒童生徒の心理にしつくりと合致するから、史上の人物と教師と兒童生徒とが一體となつて心と心とが觸れ合ふことが出來るからである。但し演劇に舞臺背景ある如く、教師が說話する間にも絶えず舞臺背景を眼前に髣髴せしめねばならぬ。卽ち歴史地圖は活動の舞臺を示すものであり、繪畫、寫眞、模型等の如き直觀材料は背景をなすものである。卽ち左の順程によつて說話中心の教授をなすがよい。

第一、歴史地圖を示して活動の舞臺を示し

第二、繪畫、寫眞、模型等の直觀材料を使用して活動背景を想像せしめつゝ

第三、教師が說話を中心として或る兒童生徒の疑問に答へつゝ、或は發問によつて兒童生徒の注意を喚起しつゝ平易な詞を以て老爺が兒孫に擁されつゝ祖先の功業を物語るやうの態度を以て國民的英雄の活動及び活動の動機たる思想、感情を理解せしめ同化せしめる樣にするがよい。勿論この間、教師自身がまづ歴史中の人となつて感激と熱情とを以て兒童生徒の心内に深く食ひ入ることが肝要である。この點は算術や理科の教授と大に異なるところである。少青年の心内に偉大なる歴史上の人物の精神が生ける姿にて髣髴と浮び出る時國民的自覺の刺戟となり永久的生命となり玆に過去より現在に、現在より將來への展開にまで進む所の根柢が出來上るのである。

終

昭和十一年五月十五日印刷
昭和十一年五月十八日發行

歷史教育講座
●第十二輯●

東京市豐島區巢鴨七丁目一六九四番地
編輯兼發行者　歷史教育研究會
東京市神田區小川町二丁目十二番地
代表者　四海民藏
印刷者　西川喜右衛門

東京市豐島區巢鴨七丁目一六九四番地
發兌　四海書房
電話六壬(巢)〇六九三番
振替東京七三八七四番